

渡世高軍強

全

信作



1609
13



特
1609

渡世高軍談

郷庭文庫



目録

高軍配國記述
諸國年代出番鑑



卷之一

糸代辨其脱之嵐の患の事



なまの人の将はく百姓の二書生
出世しむ枕草のめと樂まき家出
あつぬ徳がごころとくたふ後のたふ現

身代後世買ふてよりと清い米市

吾思ひ人の身代りてある親方自合
ちがぬお入お場おてお御りき雲は
さび身代とさかしてめき米問屋

身代より身代女差の令お別

内儀のさし米一丁の事は掛高の
令は後合さひす教習其のえんを
お買ひ計畧補はるるは枚本屋

身代ハ替の脱し南は忠乃者

君ハ船也長ハ水也。あうく船を載る赤船と覆れ古
借人ハ國君とらめまう。それより下つて。さう
商人の身代と取と長考よするも。長考と短考あふ
るを皆さ身代の仕業ぞし。我身とつうひ目と身と
つら耕作と業とする百姓又よわつて寝免ん
とまて。身代りれお笑一茶と麦粉とこの一と二季れ
まかこひひのやまを。さうふ飛せこく縁と。船と
くうりてさびく船はして半ひいて小使れよゆる男ども
のか。身代とらめ。おのこおくやま。おそら。さ
来もなれば。世よりせか。さう事と。余も吹風よす



りんごめ。一社の社はゆつりて。龍の壳倉といひひりり
 このかゝ。日本國中の龍は社神とあはれ。大黒天の位と
 義り。徳玉の商人の手代たよ。こゝれをさせしむ。社神也。
 年よ。大黒の甲子の龍。かくのごとく。徳玉の龍とあつ先
 らも。お後のようしてそれくよ。こゝの後の縁とこゝのめりり
 事ゆてあり。されハ毎年十月小出雲の大社ゆて男女夫婦
 の縁とむむびるむごどく。たかきめれば。孝子存もこゝ
 候とむる幸ハ。かゝる縁のむむびるむて。はるうがじ。まれば
 なまを大黒ふかけ。さるるるるるるるるるる。代と龍といハ
 け。大黒なり。こゝ人ふ。伝ふあて。むむむ。大黒のまハ。こゝら
 ら。甲子存もせむ。大黒とハ。寺が。このお。あといり。こゝ
 ち。の。日。新。よ。ら。む。若。れ。石。あ。て。も。と。つ。め。こ。ら。が。こ。と。く。
 谷の下よハ。物。う。葉。と。ら。り。且。の。新。こ。て。あ。り。な。ま。を
 ま。あ。れ。と。龍。も。あ。ま。ぬ。宿。さ。る。家。は。く。さ。る。れ。ハ。家。を。あ。け
 こ。そ。一。日。の。中。よ。こ。な。は。に。な。の。さ。り。そ。く。り。ぐ。く。ひ。て。ゆ
 な。さ。方。も。う。て。あ。れ。ら。う。一。は。ゆ。か。別。仕。あ。て。移。ん。だ
 ら。う。友。と。ま。の。ら。我。が。と。つ。う。さ。ら。ふ。ら。て。こ。こ。へ。む。む
 西。へ。あ。れ。活。人。を。さ。ふ。う。く。ハ。先。づ。の。り。て。な。ま。よ。ゆ。こ。と。え
 候。と。さ。り。め。法。方。へ。田。今。口。と。す。の。て。ら。ら。み。家。中。た。ら。ふ
 ち。さ。よ。は。は。ハ。頻。よ。宿。と。か。し。の。ま。り。そ。く。ま。と。の。ま。て。ハ
 通。か。居。づ。き。あ。り。若。う。し。て。ハ。ま。ま。の。口。と。形。愛。人。と
 あ。つ。は。し。さ。ら。ふ。り。つ。て。我。木。智。意。と。出。て。宿。便。あ。い。ま

りんごめ。一社の社はゆつりて。龍の壳倉といひひりり
 このかゝ。日本國中の龍は社神とあはれ。大黒天の位と
 義り。徳玉の商人の手代たよ。こゝれをさせしむ。社神也。
 年よ。大黒の甲子の龍。かくのごとく。徳玉の龍とあつ先
 らも。お後のようしてそれくよ。こゝの後の縁とこゝのめりり
 事ゆてあり。されハ毎年十月小出雲の大社ゆて男女夫婦
 の縁とむむびるむごどく。たかきめれば。孝子存もこゝ
 候とむる幸ハ。かゝる縁のむむびるむて。はるうがじ。まれば
 なまを大黒ふかけ。さるるるるるるるるるる。代と龍といハ
 け。大黒なり。こゝ人ふ。伝ふあて。むむむ。大黒のまハ。こゝら
 ら。甲子存もせむ。大黒とハ。寺が。このお。あといり。こゝ
 ち。の。日。新。よ。ら。む。若。れ。石。あ。て。も。と。つ。め。こ。ら。が。こ。と。く。
 谷の下よハ。物。う。葉。と。ら。り。且。の。新。こ。て。あ。り。な。ま。を
 ま。あ。れ。と。龍。も。あ。ま。ぬ。宿。さ。る。家。は。く。さ。る。れ。ハ。家。を。あ。け
 こ。そ。一。日。の。中。よ。こ。な。は。に。な。の。さ。り。そ。く。り。ぐ。く。ひ。て。ゆ
 な。さ。方。も。う。て。あ。れ。ら。う。一。は。ゆ。か。別。仕。あ。て。移。ん。だ
 ら。う。友。と。ま。の。ら。我。が。と。つ。う。さ。ら。ふ。ら。て。こ。こ。へ。む。む
 西。へ。あ。れ。活。人。を。さ。ふ。う。く。ハ。先。づ。の。り。て。な。ま。よ。ゆ。こ。と。え
 候。と。さ。り。め。法。方。へ。田。今。口。と。す。の。て。ら。ら。み。家。中。た。ら。ふ
 ち。さ。よ。は。は。ハ。頻。よ。宿。と。か。し。の。ま。り。そ。く。ま。と。の。ま。て。ハ
 通。か。居。づ。き。あ。り。若。う。し。て。ハ。ま。ま。の。口。と。形。愛。人。と
 あ。つ。は。し。さ。ら。ふ。り。つ。て。我。木。智。意。と。出。て。宿。便。あ。い。ま

にみけ月も。ば家よ。まうわん。工丈と。いせり。そらじり
う。あぐ。そ。あ。い。我。あ。根。を。費。ふ。負。せ。う。う。人。よ。あ。う。て。な
く。せ。あ。め。も。換。屋。と。い。ひ。今。う。ま。増。と。あ。け。ぬ。よ。う。う。て。を。う。け
美。と。出。所。と。ま。る。の。あ。い。ご。そ。れ。ま。で。地。西。へ。あ。ら。あ。や。し。よ
れ。ぬ。る。を。う。う。う。て。出。み。と。入。と。家。の。年。長。に。中。へ。ま。け。て
と。ぬ。り。ま。ぬ。う。時。は。い。か。入。落。美。を。ぬ。内。の。家。の。事。の。家。を。い
も。り。あ。ら。ぬ。う。う。な。れ。ど。ひ。く。よ。こ。の。む。と。ま。り。あ。く。も。や。と。よ
女。を。も。め。い。う。く。な。ぐ。う。令。罪。の。ま。い。り。ひ。け。ら。う。も。り。は
そ。が。う。う。し。移。ん。ぶ。う。ご。け。あ。て。お。う。あ。づ。ま。負。を。た。あ。ら。う。て
所。へ。ま。げ。う。う。や。ご。に。家。ら。い。あ。ぬ。ぬ。と。あ。ら。う。家。を。ま。い。ひ
つ。け。そ。が。り。や。う。ふ。宿。と。う。こ。せ。う。し。な。く。う。う。よ。あ。ら。あ。ら。う

ばうりやぬ。換。ま。が。ま。に。て。と。く。家。ハ。れ。及。の。大。と。教。の。鼻。柱
と。か。い。ま。う。う。よ。う。下。れ。ま。別。と。い。ま。い。は。い。ぬ。き。前。よ。信。せ。れ
ま。代。と。あ。ら。は。け。い。ぬ。あ。ら。う。も。お。も。い。も。と。且。ね。た
ふ。一。も。も。も。親。信。人。由。や。う。い。ま。う。け。い。ま。う。花。の。海。を。お。し
ふ。け。れ。ら。う。じ。ま。代。と。う。う。け。い。ぬ。あ。ら。う。又。も。あ。教。と。ま。教
一。信。ん。い。ま。も。家。ハ。白。龍。と。出。入。の。の。い。の。い。の。も。き。う。あ。ひ
て。且。ね。と。大。罪。お。よ。ま。る。ま。新。の。ま。代。と。う。う。け。い。ぬ。あ。ら。う
こ。家。と。い。や。あ。ら。う。大。故。こ。う。津。と。い。ぢ。あ。い。お。れ。ぬ
く。へ。ん。七。千。八。百。ち。一。人。と。う。う。い。ぬ。あ。ら。う。信。ん。の。家。す。く
あ。ら。う。洗。掃。ハ。白。龍。と。い。ぬ。あ。ら。う。の。思。を。し。ぬ。代。り
あ。ら。う。七。人。あ。ら。う。う。う。け。い。ぬ。あ。ら。う。事。を。し。ぬ。あ。ら。う

南

大罪とさうするもろとありぬ。又大罪を信せしめて
 が信する親ハをもやがれさびらと悲せて。よかれは
 のひとも危るとよろこびさねが大事といふ。あも
 るいも。扇のやびらぐり針金の中子にほして。身ハ舞
 雅のせりく。耳穴のあけくも切の仕事。ふ年守いと
 ゆく。まふすもろぐ。東山の花がま暖中。廣はれ
 はが酒のじやら。教入よき。若くも。あやこ。これ。酒の
 親里へ。みす。の。終極と。ゆさ。ため。後の。十文づ
 と。せ。ふる。ま。事。し。よろ。こ。び。は。後。と。し。あ。て。一。生。の。後。が
 い。よ。細。布。の。赤。ん。ぐ。り。か。り。や。い。あ。ふ。さ。や。う。が。ら。と。大
 高。人。の。で。ら。ら。ど。も。が。親。門。の。と。び。ら。と。う。め。ら。せ。せ。ど。
 不政の下（おき）。す。ま。す。と。ハ。か。く。金。の。ち。ら。い。う。り。も。方。目。は
 我。が。目。と。い。つ。あ。ま。る。大。黒。敷。と。信。せ。し。や。ゆ。い。よ。び。を
 子。ど。も。と。案。の。非。持。と。ち。に。は。め。あ。や。ら。は。れ。ま。り。と。見
 事。さ。し。か。ま。つ。て。人。は。わ。く。す。の。ころ。は。た。ま。い。親。と。れ
 り。と。あ。り。つ。け。と。あ。く。と。い。ふ。と。案。と。も。ろ。や。も。お。の。こ。う。下。敷
 乃。秋。と。め。い。に。が。こ。れ。は。け。の。穴。よ。く。あ。い。は。ば。秋。の。あ。ら。で
 月。い。ま。で。末。の。下。敷。さ。り。親。子。ハ。さ。い。め。あ。り。ひ。と。は。し。志。づ
 く。穴。と。れ。ね。し。て。い。そ。ご。い。宿。み。か。つ。り。あ。や。れ。み。た。と。あ
 ち。よ。よ。出。せ。し。よ。い。が。き。よ。と。家。く。の。白。靴。と。ら。う。そ。志。を
 は。く。し。と。は。合。の。さ。う。り。あ。る。親。の。都。よ。形。と。う。し。ん。

高一人巻



又且ねとよぶれて。せうりようをもまたのりれ

よ代と像と費ととりと精と米市

今時の所へんじしりよりハ続ふくして。つづつる利徳

あつ目とくけぞ。魚ハ大船とよけるまよ服とつけふる

ある高貴ふんをせせも。大氣はしていさあひハ虎風をく

ぬ里とてひちるまふかつて。身代とつあせ人せしあか

ちぬちぬある人も。今時の運ふのたれば。怪よもあせとう

けさ。いほびんせらわび。あひいさるまもらぶゆめら

たへハ回留もあり。御紙もあり。去とかり。ゆし程と寄

ども。軒作の所へみたがいて。これとるせふ穀牛。せせして

そのうちとていさひいさる。おまへ人の別とて。時をいさひいさる。い

くも。いさるや。いさるおよび。いさるのそ。かくべし。まよ。いさる

か。いさる。いさる。いさる。いさる。いさる。いさる。いさる。いさる

ふれば。あよ。いさる。いさる。いさる。いさる。いさる。いさる。いさる

法神とす。いさる。いさる。いさる。いさる。いさる。いさる。いさる

いさる。いさる。いさる。いさる。いさる。いさる。いさる。いさる

厄天の法とす。いさる。いさる。いさる。いさる。いさる。いさる。いさる

いさる。いさる。いさる。いさる。いさる。いさる。いさる。いさる

いさる。いさる。いさる。いさる。いさる。いさる。いさる。いさる

いさる。いさる。いさる。いさる。いさる。いさる。いさる。いさる

いさる。いさる。いさる。いさる。いさる。いさる。いさる。いさる

いさる。いさる。いさる。いさる。いさる。いさる。いさる。いさる

いさる。いさる。いさる。いさる。いさる。いさる。いさる。いさる

せられて。ようとおとせめ。ついでにあらわはじ。とす。

 なまぐさすじつごの失のなまぐさ。まじまじにあらわ

 お切があらわといひたる。お切とらふと申さうけて。お家はすま

 ざぐらゝまゝのまゝとて。きかして切てやうするんぞ

 ひろと。あつたれ大商人の大丈支るる性根かつて。まじ

 ハまゝのうらゝんづれば。先ごころこふ休んの店ね。あらはと

 しろくぐらゝ。ひよりとせ。大氣をのらば。まじまじと

 万まひのめふと死つて。せし。つげよとあつて。まじまじに

 ハ休んの店のまじまじと。信寄のあらはと。まじまじと

 中身がうつと。め。大氣。まじまじと。大氣。まじまじと。

 兼賞たとうらゝ。まじまじ。信寄のあらはと。まじまじと。

百八十一のめ。まじまじ。信寄のあらはと。まじまじと。

 信人あらはと。まじまじ。信寄のあらはと。まじまじと。

 出で。穴とまじまじ。まじまじ。信寄のあらはと。まじまじと。

 とこのまじまじ。まじまじ。信寄のあらはと。まじまじと。

 らい。まじまじ。まじまじ。信寄のあらはと。まじまじと。

 て。大板くんだり。母この娘。まじまじ。信寄のあらはと。まじまじと。

 く。娘あらはと。まじまじ。信寄のあらはと。まじまじと。

 乃二十二年。まじまじ。信寄のあらはと。まじまじと。

 まじまじ。まじまじ。信寄のあらはと。まじまじと。

 盆上。まじまじ。信寄のあらはと。まじまじと。

 て。味。まじまじ。信寄のあらはと。まじまじと。

ぢども。後々大事と飛海の事の事ありて。おんまの事
 の後々の存つて。さうして。我もまた。出入あるよりして。出ま
 とめ。石を焚て。えうふと。おまが。どのへ。おまこと。おま
 強氣弱氣あつて。海中の思入一筋ち。ね。存門も。思入のらこ
 しま。う。げ。して。さう。く。い。る。ち。お。我。ん。と。し。と。い。ま。う。さ。う。さ。う。の。事。八。佛
 よう。う。ひ。て。あ。る。た。は。さ。う。づ。お。中。の。利。潤。を。ん。と。し。せ。お。在。中
 細と。その。う。の。事。の。お。場。と。佛。よ。め。い。と。い。ら。と。我。も。佛。も。佛。も。ま。さ。く
 き。と。い。ひ。さ。る。や。ど。よ。さ。う。ば。お。あ。て。し。て。時。の。仕。合。が。仕。合。の。昔。お
 ち。る。ま。さ。し。と。お。と。こ。ろ。より。観。音。藏。と。出。園。の。入。行。の。音
 と。と。出。し。利。と。お。る。時。ハ。大。者。よ。由。り。利。と。お。わ。け。時。ハ。大。区。よ。あ
 ころ。な。れ。ば。い。り。ま。さ。し。と。後。と。こ。ろ。で。観。音。の。實。年。と。三。十。三。遍

ま。あ。い。の。音。と。う。つ。て。出。園。の。お。作。と。い。て。い。く。り。ん。と。ん。せん。の。事
 手。と。ん。合。か。ん。ぐ。へ。お。我。お。今。う。と。い。は。お。我。と。以。て。勝。利。と。お
 ころ。ま。さ。し。び。く。ら。う。と。し。せ。ば。何。が。欲。ふ。目。の。入。ぬ。と。や。ら。た。
 乞。お。あ。う。か。い。し。音。と。い。て。さ。う。い。わ。ん。若。ふ。観。音。の。中。の。事。と。い。は。
 出。園。と。う。つ。て。お。出。し。え。れ。ば。中。九。九。歳。と。あ。う。や。が。そ。ん。と。ん
 せん。と。ひ。と。い。さ。い。れ。ば。う。ん。い。く。せ。い。で。ん。の。お。と。後。ま。す。大。お
 ち。さ。う。い。ま。び。り。して。神。唱。あ。ら。と。及。約。人。下。法。か。う。さ。を
 こ。ら。ん。は。し。て。氣。と。さ。う。し。ら。ふ。島。を。あ。い。し。も。お。あ。る。か。大
 函。る。う。利。と。お。ら。事。か。こ。う。事。成。就。せ。ま。と。あ。れ。ば。一。元
 の。お。や。ら。ご。も。二。念。と。つ。が。お。先。的。目。ハ。思。入。と。お。び。べ。と。お。そ
 と。仕。并。ふ。い。と。お。あ。て。密。く。か。り。ぬ。に。ち。り。ま。け。る。なる

まは勝もあてきんめん見れ大図のやうなとやてあまの
縁いゝととまらて戸柳へまうして年々啼こしてんあつと
いそて酒とくれ。今も百あめとめとこほし酒釣お淡れ市
ふ出で毛と入念にして千石賞一又屋こよりお瑞つ
よくうつてそおと大かもの利をたごり。念仲海中は幸
とやあぶび。にちあつが方よ来て物ともつよ氣よてハあつな
が。今せじし入ふあつらるるああるあへきんもんへあ
づのうれ笑大図とあつあつらてあ入をやせしよ何としてそ
ことあつるぐらあんみてうれを親者ゆらりれぬ智カ
そくまとやのいいたづひけきばたきつ打笑ひは津よじよ
まごぬい釣さる茶のあがりさぐりと。移んがけておあふ

人ぐよハあありむ大キお図とよあふハうくくも。そあの
絵あとりんがかなうすお瑞つらるるぞとあひハ律
とらてるあ人の親あせしあがんだんの見智あ也雷ハ元
天ののれなれハあちてくハあがらむおハいぬとす。分
引さめて實あ今ハ利徳とたる事とあつれハ減ま
さうであつこもあつこも罪とああがせしと。歯切して
あうぬ。それよりにちあつ入のひやししよ。一季たぬら
ふ手あもくけあ。よろこびいさみては百お判七百あ身とあ
て。右の方へおほしてああのとああをいして是事の換金とあ
ああ仕まハああ氣とゆるされ向後出入はるやうにはあ
あしとあ入るし。真をつらてけけるやうに。ああああ



商人のくちと申されれば。なめ。あさ仕籠也并ん。と。ま
商人志人を新より。いと。も。れ。ば。も。真ある志を。清めて。合
み。ハ。出。り。と。と。で。お。ろ。う。と。も。ぞ。と。を。お。ろ。う。と。も。へ。ぬ。り。け。き。を。
に。た。ら。あ。り。げ。て。あ。が。へ。は。ね。と。り。め。た。ら。う。と。い。の。志。キ。を。
中。と。の。ろ。と。丸。心。の。太。寺。あ。ら。う。ま。い。と。い。ひ。む。ら。う。を。
と。く。仕。合。の。け。ふ。あ。い。て。今。大。坂。へ。て。堀。村。に。ち。う。と。り。ハ。か。く。
と。と。ろ。う。と。ま。商。人。の。信。一。と。り。め。ぬ。多。へ。て。運。よ。か。み。ぬ。
人。と。ま。ら。ぶ。べ。り。と。ぞ。け。ふ。あ。ら。ぬ。太。親。人。と。ま。あ。さ。れ。ぬ。や。
一。切。の。商。人。を。度。く。仕。掛。て。入。ん。と。あ。ら。う。先。銀。の。お。り。と。と。
に。し。ら。る。と。申。ふ。と。下。ら。ぬ。時。も。難。費。ある。判。事。を

東代もさあゆむ女えの合を別

う。と。て。か。り。あ。ら。う。ま。い。め。れ。切。又。附。と。た。ぐ。も。也。并。して。と。ろ。
と。と。と。と。と。と。常。よ。移。ん。ご。ろ。よ。ま。く。け。が。づ。の。め。ん。と。あ。り。
怪。る。質。地。を。ぞ。い。せ。り。す。し。と。め。め。よ。ら。ぬ。事。と。は。して。
手。取。の。書。は。よ。ら。入。い。あ。ら。事。は。と。ら。ん。ら。が。あ。ら。は。して。と。と。
根。城。は。して。あ。け。ハ。急。ある。附。の。る。よ。あ。い。商。の。は。廻。一。よ。く。大。
分の。勝。も。ふ。なる。事。も。新。の。す。と。あ。ら。い。ハ。い。ん。の。形。あ。ら。
せ。る。ふ。新。と。あ。ら。ぶ。ん。せ。と。ら。つ。て。わ。る。商。人。万。事。我。新。め。て。
年。中。増。あ。け。の。家。の。ま。く。う。か。く。ハ。皆。あ。ら。う。と。も。内。院。
の。来。れ。ふ。れ。ぬ。洞。義。と。と。せ。と。ま。る。事。を。し。と。ろ。け。と。と。
と。ら。づ。ひ。あ。ら。う。商。人。の。ん。も。武。義。の。い。ろ。く。大。版。中。は。して。何。不。
どの。大。形。ある。事。も。信。あ。て。る。と。あ。は。も。事。と。と。と。く。ハ。法。は。と。

の町人私氣余雨とハかくべつなり。さる所大名代水増礼とハま
 ずあつたにれを委と建うへるもつと。此出入の枝本や亮
 孫山やの孫他去佐本やの方とあ人とめされ。此入用の枝本の
 内注文と出されよ。あ人ねえして。中中自の首はねえ
 平地も介九柱の申ふを南地の枝本屋よ。穢るる本もね
 見え下せばを園の山と美異いと。此注法の本とよ。この(は)
 とケ中へ。あうは。こつるの障入およそ中自もあつとよ。
 や。日殺こりか。つて急よ。ハお後合。こつむ。孫やあごきで。
 此用人亮とにじり。まいざんや。く。そのつて。出ま。げ。つ。ま。ふ
 て。も。こ。ら。や。こ。方。と。な。て。つ。つ。り。も。べ。い。こ。の。仔。と。こ。つ。た。あ。人
 うけ。ぬ。り。つ。て。私。書。の。つ。り。ぬ。去。佐。本。や。方。六。の。代。新。素。と

ま。び。う。を。南。海。の。寸。法。の。枝。本。た。と。へ。ふ。う。う。ア。世。して。も。老。孫。山
 屋の孫他より。ま。き。く。出。せ。一。時。ハ。お。を。委。へ。ハ。め。され。せ。て。世。方
 ね。づ。こ。と。る。れ。バ。何。と。を。孫。作。う。一。時。も。先。へ。出。と。也。衆。ハ
 あ。へ。ほ。ほ。と。や。し。ら。ら。ら。る。わ。が。代。新。素。取。り。ま。が。く
 二。更。一。て。P。ハ。い。ん。や。セ。ク。也。私。計。畧。と。つ。て。孫。山。や。が。先
 と。孫。て。い。病。と。ま。あ。あ。せ。て。内。自。ふ。か。く。げ。と。ね。め。も。内。だ。じ。の
 美。山。佐。入。と。P。數。警。ハ。今。新。警。考。ハ。つ。け。り。は。して。派。の。口。入。と
 伊。り。後。方。へ。那。を。委。と。あ。い。あ。て。さ。る。は。ば。派。の。出。を。あ。か。く。ハ
 孫。山。を。と。ま。ま。バ。ま。お。つ。い。て。よ。う。な。方。便。と。お。ひ。つ。と。い。ま。ま
 孫。山。に。ま。さ。る。を。あ。る。べ。と。い。そ。ご。枝。佐。入。方。へ。り。や。ゆ。と。お。お
 面。し。て。P。け。る。ハ。ば。私。と。ね。去。内。を。委。う。と。急。る。枝。本。と。信

なりをきくのふりかかしては、いまだ人々を金さへ入
解法方へ令子のをえとてのち廻りつる。さかへハ孝公みと
りうからの方よりあつて、いまだハ世はあつた。個へ下と
るくは、いまだつじきまふ。何とも三百あつた。は
がえれば、ひとへよまのじと、いまだは、いまだは、いまだは
がこれば、いまだは、いまだは、いまだは、いまだは、いまだは、
あつても、いまだは、いまだは、いまだは、いまだは、いまだは、
ハ、いまだは、いまだは、いまだは、いまだは、いまだは、
ハ、いまだは、いまだは、いまだは、いまだは、いまだは、
ありふ、いまだは、いまだは、いまだは、いまだは、いまだは、
のが、いまだは、いまだは、いまだは、いまだは、いまだは、

我本思ふハ、他人をいかにいかにいかにいかにいかにいかに
百あがり、いまだは、いまだは、いまだは、いまだは、いまだは、
かま、いまだは、いまだは、いまだは、いまだは、いまだは、
は、いまだは、いまだは、いまだは、いまだは、いまだは、
の、いまだは、いまだは、いまだは、いまだは、いまだは、
い、いまだは、いまだは、いまだは、いまだは、いまだは、
て、いまだは、いまだは、いまだは、いまだは、いまだは、
さ、いまだは、いまだは、いまだは、いまだは、いまだは、
家、いまだは、いまだは、いまだは、いまだは、いまだは、
と、いまだは、いまだは、いまだは、いまだは、いまだは、
さ、いまだは、いまだは、いまだは、いまだは、いまだは、

乞ハあつたれの内思敷は侍者やが足掛せよと申すお世よ
 こづんもせんと申す。そまはく泣く道やうめて。氣が
 のおれる事らあまは侍入をといふく。あつたれぞの
 ぶん目ぐうとくせ。鼻をあせてはあえとらふ。ぐ
 侍入をせよといふびの。あつたれは。あつたれは。あつた
 下さるぞ。そかりうよは。あつたれは。あつたれは。あつた
 新いころこの素代が。あつたれは。あつたれは。あつた
 一層ゆれと。あつたれは。あつたれは。あつたれは。あつた
 侍者あやが。あつたれは。あつたれは。あつたれは。あつた
 際と入て。あつたれは。あつたれは。あつたれは。あつた
 る。あつたれは。あつたれは。あつたれは。あつたれは。あつた

よい。あつたれは。あつたれは。あつたれは。あつたれは。あつた
 や。あつたれは。あつたれは。あつたれは。あつたれは。あつた
 とく。あつたれは。あつたれは。あつたれは。あつたれは。あつた
 へ。あつたれは。あつたれは。あつたれは。あつたれは。あつた
 あつたれは。あつたれは。あつたれは。あつたれは。あつたれは
 て。あつたれは。あつたれは。あつたれは。あつたれは。あつたれは
 の。あつたれは。あつたれは。あつたれは。あつたれは。あつたれは
 へ。あつたれは。あつたれは。あつたれは。あつたれは。あつたれは
 ありて。あつたれは。あつたれは。あつたれは。あつたれは。あつたれは
 たれは。あつたれは。あつたれは。あつたれは。あつたれは。あつたれは
 と。あつたれは。あつたれは。あつたれは。あつたれは。あつたれは

トセバ。新氣いんとししく。時勢とハ何れもいしく。と。勝んハこそ
兼ふ。あう。まをふと。ぞ。あそ。その。の。ま。ま。や。う。よ。一。生。は。世。
よ。も。ま。さ。や。と。い。や。つ。ま。い。勝。と。め。め。で。ト。セ。バ。ら。よ。よ。と。又。匠。有。
し。あ。り。て。あ。よ。ま。の。あ。う。よ。た。の。ん。で。ま。り。ふ。と。と。恐。ろ。く。や。し。
ゆ。ま。て。い。い。が。ん。を。さ。さ。い。ま。れ。ま。も。も。ま。作。ま。や。方。ふ。い。ま。
令。が。そ。の。の。あ。と。て。あ。ん。の。新。氣。兼。ふ。新。木。方。へ。ま。り。男。泣。
ふ。あ。い。て。ぬ。の。い。ま。も。と。し。あ。い。て。い。ゆ。は。り。て。あ。い。ま。も。と。し。
至。ま。来。ど。の。か。あ。り。て。い。ま。ま。い。飲。め。ん。つ。ま。ま。と。か。さ。令。の。
あ。え。の。と。て。新。木。方。へ。ま。り。い。ら。ぬ。い。そ。げ。バ。ゆ。り。ら。と。い。ま。ま。れ。
ハ。あ。し。つ。け。て。ま。づ。う。ふ。い。へ。よ。ん。て。よ。う。ふ。な。れ。と。作。ま。や。方。
の。目。ぐ。ら。う。の。ま。り。ハ。新。木。方。へ。い。ま。ま。め。つ。け。て。あ。い。ま。も。と。し。

ハ。新。木。方。へ。大。新。木。の。つ。ま。り。に。か。が。り。せ。と。佳。入。が。礼。い。い。
く。ゆ。ん。と。う。ら。ま。も。ま。作。ま。や。方。ハ。新。木。の。大。本。ご。と。
の。ら。ん。ど。切。半。い。ま。り。よ。う。り。よ。う。り。て。新。木。方。へ。む。ら。ど。目。中。有。
か。し。あ。せ。け。ま。バ。新。木。も。ま。ま。兼。も。さ。う。ふ。ま。ん。し。れ。を。え。
ま。り。ふ。つ。う。い。せ。い。ま。代。方。へ。極。子。と。さ。う。ま。林。ま。り。て。め。り。
う。る。所。へ。い。ま。代。大。汗。と。あ。び。て。新。木。ご。と。よ。め。つ。て。新。木。方。へ。
ま。り。つ。つ。あ。内。よ。ま。作。ま。や。方。の。い。ま。代。方。新。木。方。と。切。半。い。ま。
と。か。け。て。麻。へ。出。し。つ。ま。目。の。内。よ。ま。ま。え。つ。け。る。て。い。は。ら。
え。ま。り。い。ま。り。ま。り。や。い。方。八。天。物。や。ど。と。い。ま。り。ま。り。て。も。
ま。作。ま。や。の。ま。ん。と。こ。も。ま。作。ま。が。う。な。ど。それ。は。山。堂。い。ま。ま。
ど。逆。足。と。出。し。ま。り。ま。り。ま。り。と。あ。い。ま。り。と。い。ま。り。と。い。

かくりせむ。強作も甚々忠しうめて撰ぶと抄。お
 八令ひやくしやうがえときき色いろをたい方かたふゆばんとてせてたてて
 中ちゆう智ち累るいさうりてハはをを方かたとては後ご齒ぢぶりして男おとこを
 りみてもわらひぬ。よいあさういを大おほ作しやう本ほんをよして
 ころま。ころまころまと小こ抄しやう本ほん中ちゆうるよころまころまいさ。扱あつかしらふのころ
 事ことをといふも。扱あつか事ことろくふきうれうをい業ごう師しがもくも
 よあつと。よまよまのぶぶぶとととと。それらう傳でん入にゅうが
 出入しゆつにゅうとめられ方かた代だいの脈まがわたりぬ

近代商軍法一之巻終

| | | | | | |
|-------------|----------------------------------|----|---------|----------------------------------|----|
| 万宝庭訓往来 | <small>頭書 在突</small> | 一冊 | 万宝教訓往来 | <small>古抄抄 傳抄入</small> | 一冊 |
| 宝永庭訓往来 | <small>くろ有 右同の</small> | 一冊 | 諸職往来 | <small>諸商費用要の 文字と集り書</small> | 一冊 |
| 孝子節用福壽海文字傳入 | | 一冊 | 万宝福壽往来 | <small>庭訓并往来物 古抄抄集り集</small> | 一冊 |
| 式目抄 | <small>委 右と解</small> | 二冊 | 用文章指南 | <small>文章ねり書札 付式ふり書入</small> | 三冊 |
| 商人平生記 | <small>商人平生記の 肝要とあると</small> | 一冊 | 玉魚流今川 | <small>大字 子中</small> | 一冊 |
| 庭訓抄 | <small>委細書</small> | 三冊 | 諸礼教訓鑑 | <small>童家歌方書</small> | 一冊 |
| 庭訓新繪抄 | <small>回り繪</small> | 一冊 | 改算智恵車大全 | <small>地ろ早算 新板改心</small> | 一冊 |
| 男重寶記 | <small>諸の訓法 板ノ家集</small> | 一冊 | 諸人一代八卦 | <small>平假名書 たまやりの書</small> | 二冊 |

書肆

京都寺町松原上町西側
 菊屋七郎其子



渡世高軍談

高軍配國治道
結國身代出世鑑

目録

卷之二

身代が同流は身づく流中世令

身代の愛をけり身代れさあつて口

あこむが裏信を身代れを言ひ身代

余も推し身代れを言ひ身代れ

身代が魚吐の符捨 合はせり花

ちまが定夜ぢやまの橋はしつらふわいらぬ橋はしと

男おとこれをいふぬ佛ぶつ救すくつらふ人の善ぜん心こころ

親おや父ちちが物ものあひまふれつらふあまを

身代が魚吐うししろの符捨ふりすてとちまの徳令とくぎ

後ご家の情なさけは解とりぬ我われ抱かかりすまが判はん

年としとそらてまの多おほいあふが合あ言げん

巧たくい座ざの青あおぬ根ね根ねと焼やてまのあふ

身代が内うち徳とくと徳とくよ是こゝつぐ徳とく申まをれ合あ

右みぎ人のいふ其その父ちち折お折お子こ弟あに克かつ負ふ荷かとつらひび

ぬるませるれとあふらうらうらとんらふ代しろつはし

親おや抱かかりぬ親おや父ちち若わかさ時ときりらふ縁ゆかりがこ

汗あせとあ。物ものとせつ起おこして自みづか然げんよ發はとゆひはしけ

みて確たしかとふ。其そのハ確たしかに地ちの徳とくとあつて善ぜん物ものや小せう賣うり

るれあふ日ひと下げ法ほふ堂どうとあつて小せう法ほふと海うみにあらふまも

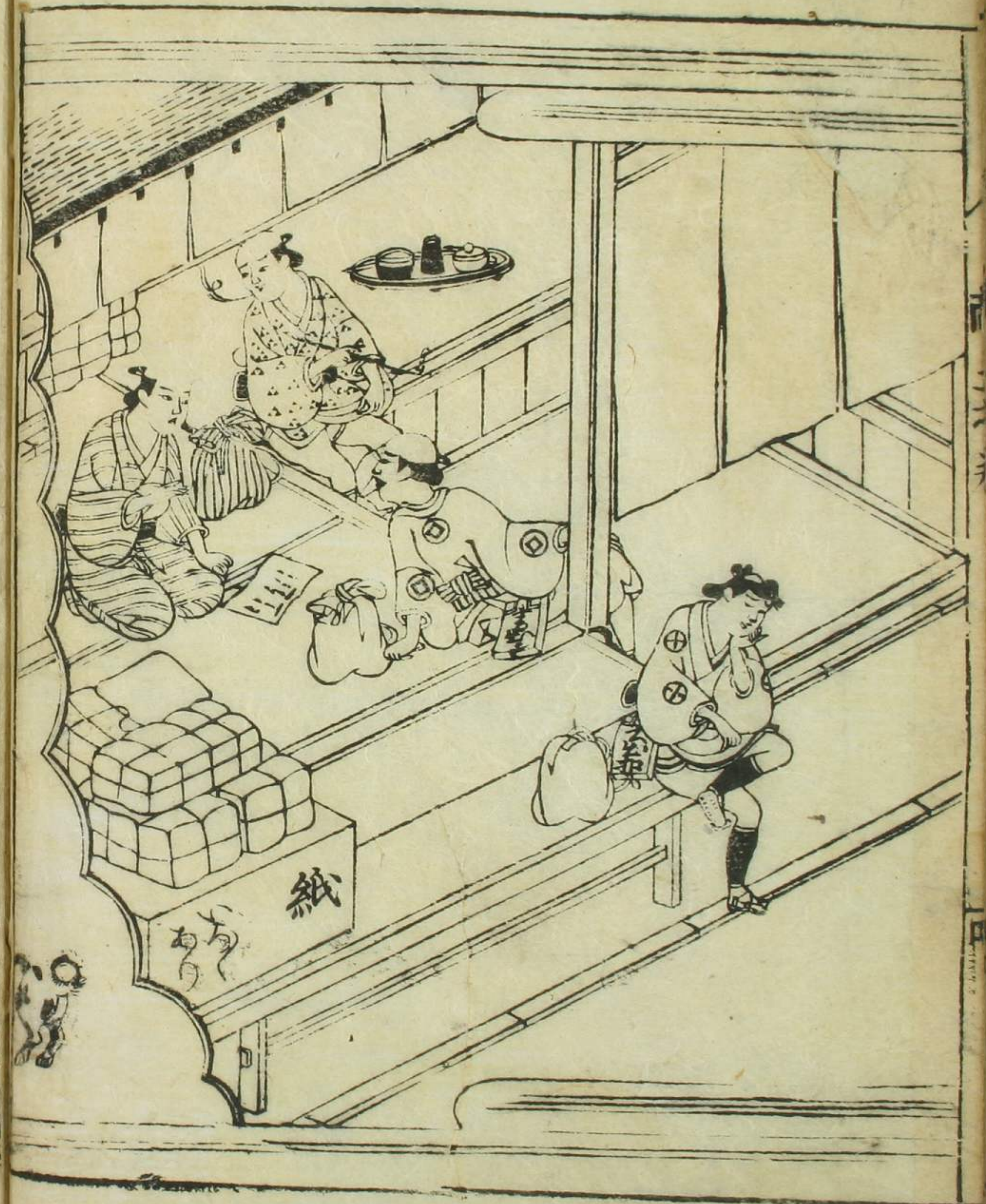
目めあふりよあふらとあふらと場ばとつらふ事ことと世よの費ひ入い

ちあがらふのたをいふたじと新あらたて見み物もの事ことの後あとの

いふあは下した脚あしもも目めとあふらと。女おんなの影かげとて入い

寛政の月のおもひ時侯と云つて。才の表れせと入事と
鼻で鼻をふるるもろくはして。いふ事おせと。世にて
今長者所と稱するも。家をもとめ。大名備する程を
乃か限者と。はるあいに。二か條の中。なりなり。な
と引致して。高貴れるようも。侍奇鞠揚る。三味線
は。ごも。金茶の湯。よ日とらじ。清茶の付。在とる
と。か。ひつ。つ。ま。ね。も。か。が。て。も。し。げ。つ。事。み。は。と。らん
ん。と。あ。い。づ。げ。せ。商人の。ま。た。よ。あ。い。ど。と。母の。親。夫
魁せ。る。れ。ハ。ぬ。う。無。親。よ。て。我。あ。も。と。り。め。い。と。而。女
と。ハ。和。が。へ。そ。ろ。ど。らん。も。二。の。辰。也。ハ。え。事。あ。ら。ま。す。と。
く。商人の。あ。ら。わ。ら。る。ん。り。二。代。と。こ。も。あ。つ。め。の。せ。

江戸よ。内。院。さ。び。く。ら。う。の。家。ハ。甲。の。い。と。い。と。て
とお。い。も。代。ハ。う。て。と。と。と。つ。も。あ。あ。あ。ん。だ。い。せ。
あ。い。と。て。お。親。仕。也。よ。す。う。親。今。の。世。よ。あ。ら。ま。す。は。く。
親。を。子。奉。し。い。り。れ。ハ。ね。お。や。政。ち。ら。系。大。叔。め。お。ま。え。系
の。愛。を。し。て。俄。よ。お。代。う。こ。う。と。し。と。お。親。父。也。ち。ら
矣。財。ハ。せ。せ。し。て。且。お。の。一。億。お。ら。り。る。道。び。こ。ま。め。れ
も。代。も。ら。び。家。も。く。ず。ま。ハ。も。代。の。物。也。よ。なる
を。さ。事。と。え。さ。め。び。り。物。と。し。て。河。川。の。あ。い。ふ。家
と。り。て。俄。ハ。家。ご。ら。り。ハ。ち。な。れ。た。且。お。う。り。え。い。と。い。と。
ら。せ。ら。人。方。ハ。お。入。の。後。居。と。し。の。い。ま。は。世。は。後。だ。せ。と。出。た。と
一。と。お。い。あ。ら。ま。す。は。い。と。う。ち。あ。ら。ま。す。真。ら。り。い。と。ん。と。い。と。う。く。ま。



わそびよ幸しく計三百あつてよ。家のいひよなふと
 いふ人もあつふ。我木茶をあていつつる程とつまひあつて
 今^{びん}美都の花ざうりふあふ事よと。我身と恨^{うらみ}都の下より
 出^いと越^こてゆくとする是ふやんやそ^はのやうら
 もの^はつて。もつとよとやりつるよ^はの^はひもび
 是^はよのまじり。ゆ^はいよ^はよ^はと^はら^は。あ^はよと^はけ^て
 又^はよ^はの^はる^る流^の中^{より}。ま^はら^らと^はさ^き地^を引
 ぎ^らあ^はび^ぬい^ぬん^さふ^らが^らあ^てさ^らつ^てな^らば
 小判あ^らば^三百^あづ^ら入^一枚^布さ^らぬ^は今^のひ^もこ
 どの^親の^人と^なま^んで^出と^は代^もが^えつ^けも^と
 返^らけ^まり^しゆ^かは^まと^はさ^らら^らく^らね^おか^はせ^とて^ん

とまづあてか^らふと^は海^をこ^して^陸と^一は^は今^と交
 小^堀の^中あ^らま^りん^にた^のあ^まら^して^流の中^に
 へ^まこ^みと^さい^はま^まら^らあ^らま^らと^今と^さら^らま^らと^我
 よ^はよ^は天^我命^とす^くせ^らゆ^よと^さら^らあ^らか^じ
 く^もま^らの^門出^はは^まら^とす^くと^さら^らま^らと^は
 か^らま^らや^とさ^らひ^せて^我家^にま^らら^ら
 名^代う^ら色^吐ハ^詩於^一令^の返^り花
 それ人^ら一^せの^仕合^福と^ゆ事^ハ稀^はして^ふ仕^合
 ら^ら事^ハあ^らり^まあ^られ^が若^天な^まあ^らひ^ては^らら^ら幸^ハ
 と^は時^よあ^はひ^りさ^らひ^よの^う時^はあ^らら^らは^ら時^とし
 ら^らら^らと^は日^よつ^らと^は採^へは^らは^ら

ころがしりた。あつてひともいふ事あるぞ。後だ
 のころ、仲政もうらむせうたれめいよあつておもしろ
 小判三百両換ひ返し。紙やの字をうつ。あつておもしろ
 子守れせしめととてきて。長坂おとろさるひ。自
 然先こへけまりつて。おとろさるひ。おとろさるひ。
 年み年かうちらみみあはれ。に東通よ長はすめるの
 屋敷とともあ。あつておもしろ。あつておもしろ。
 やよふかき。おとろさるひ。おとろさるひ。おとろさるひ。
 かり。あつておもしろ。おとろさるひ。おとろさるひ。
 ねあつておもしろ。おとろさるひ。おとろさるひ。
 てそれより。おとろさるひ。おとろさるひ。おとろさるひ。



出さうそあるは系へゆくとあれが。あすふてもあるはよて。
 二条は本友はとらめてるまへ。あげや所の是太直が知
 かり事と。男の上とくするまへと。まへに言たうたのるよて。
 隣子越よはまきめ。茶を煮くしよびくやどふ。あまき
 びやうよりあへんけ世にせして。ひまよと出さうかやと。
 おづく隣子とあひてしこまれが。きんつよなくらうく
 あべ。今そちがあひてよとくするまへ。三はあれらうまよと
 突て。ちうごころ笑止よあまきよより。うくとみ細とよて
 のと。まへ令ゆへのあまき。わ我おれおれおれ。おれおれ
 おと院法しあてびな家へとぞしてやるべ。いよく三はあ
 海の屋は埋垂て。うしるあ。いよくあれが。あまき

うとくまへとくまへ人の。あまき。あまき。あまき。あまき。
 我おが性振とついでるまへ。まへまへ。まへまへ。まへまへ。
 まへまへ。まへまへ。まへまへ。まへまへ。まへまへ。まへまへ。
 若まきがおまハ二条通の屋のせまき。まへまへ。まへまへ。
 が。誰よとて怪よまへ。まへまへ。まへまへ。まへまへ。まへまへ。
 ばあはのあまき。まへまへ。まへまへ。まへまへ。まへまへ。まへまへ。
 まへまへ。まへまへ。まへまへ。まへまへ。まへまへ。まへまへ。
 おまき。まへまへ。まへまへ。まへまへ。まへまへ。まへまへ。
 まへまへ。まへまへ。まへまへ。まへまへ。まへまへ。まへまへ。
 まへまへ。まへまへ。まへまへ。まへまへ。まへまへ。まへまへ。
 まへまへ。まへまへ。まへまへ。まへまへ。まへまへ。まへまへ。
 我おまき。まへまへ。まへまへ。まへまへ。まへまへ。まへまへ。

おこいまりし時そらハちるまひがそ方がある。人々
 三女合カゆて、よび學園よりつてかく使合の時
 あふも皆そそのわうが家の人多うれ親あり。人々と合
 よるよして分るにしていづれ我おう一人。二百
 ハもどし。もと十月小判つて。お年うられ利是と
 けてこれバ報よるとしてえ利合て二十小の費められ
 むび報子とけよれ留つらう。いなるれよ親山のよお
 とむびてやうべと。月かぐんのもまうやへらら
 あり。お子はそをう友まじ親あて合報と使合
 けむげんとそんド親とゆらうとつた。今やとらと
 改らるに幸このころ一人のころとあて。報二十費目

余とらけぬめり。我お方へあづけかりきぬ。つら
 せらの幼る後一ふれとえらうよ。是業へ入解
 ハち報お扱ハはれづれよ。賣揚校身とこれつ
 つけ賣強うといまらふらうて。自分かき出
 ころむと子ハ梅らうよ。さすがハころこれほきやあ
 けて。ととのあう商人とらけぬめり。せふ。まうり
 大分の報と仕出さう。いあつれ商人の子。お報
 とい思考とぞんせられた。いんやよのやよして。幼
 けゆらこれまうといんまて。親父よとれとらじ。その
 んも入らう。もので。いんまて。三十費目
 てこい。幼るゆ。とらとらと信られて。とやうゆらうに



流たつてのむじとあれが。いふもく映りて因りて一と系
 らふと。三つていふはつまじい。勢氣ゆるし一筋のむじと
 かりたる。殺敵とせしむる。是よりやんとあつてあつてい
 う。商賣の信と出。款又時代よりあるとかくを川の
 大別神とあつて株のむじとあつて。三代のむじとあつて
 人よあつたれぬ。またあつてにやとたらあつて。またあつて
 やのむじとあつて。とらふ。朝の八日よれをかきさす
 ほとあつて。流は流中の令。くらてくらせぬ。あつてのむじとあつて
 一とあつて。

三代のむじとあつて。とらふ。朝の八日よれをかきさす

流のむじとあつて。とらふ。朝の八日よれをかきさす
 このむじとあつて。とらふ。朝の八日よれをかきさす
 た。令流のむじとあつて。とらふ。朝の八日よれをかきさす
 けぞとあれが。令流のむじとあつて。とらふ。朝の八日よれをかきさす
 事。人よあつたれぬ。またあつてにやとたらあつて。またあつて
 法辨のむじとあつて。とらふ。朝の八日よれをかきさす
 世とれ流のむじとあつて。とらふ。朝の八日よれをかきさす
 一人もあつて。朝の八日よれをかきさす
 けらるるもの。あつて。とらふ。朝の八日よれをかきさす
 奴のむじとあつて。とらふ。朝の八日よれをかきさす
 ぬらるるもの。あつて。とらふ。朝の八日よれをかきさす

おそれくささみて。きこふもいらぬ事なるとの念に。か
 げども。今罪と大事よりけて。一後ともそのまのせむ。書作胸
 へ始末の二字とんげかりふも。十悪。壁とくらふ。あ人
 の泥のばあ。しらまゝ。後平野屋の床た。として。一せ
 れ中。は。方。あ。しら。い。令。と。ため。四。つ。の。地。を。よ。も。あ。て。を。ひ
 り。中。ま。よ。か。や。さ。な。れ。ば。を。道。の。人。は。家。の。て。り。も。と。同。字
 檀令とあ。あ。ご。め。年。事。ふ。か。や。んで。大。病。と。な。け。ぞ。で。に。末
 終。よ。あ。つ。て。南。華。十。七。あ。る。一。子。深。を。た。そ。か。も。然。火。の。こ
 ら。ぞ。枕。え。へ。ら。び。よ。せ。中。眼。よ。ら。ん。ひ。こ。て。我。は。な。ほ。世。の。思。西
 と。け。て。圖。魔。の。ま。よ。な。か。あ。る。小。胸。算。用。と。さ。ら。め。な。れ
 と。さ。ひ。の。こ。ま。さ。ら。は。した。た。ぐ。牌。子。却。あ。ら。れ。ば。は。は。お。お。り。て

ぬと。こ。ほ。あ。や。う。に。い。ふ。ま。べ。し。ひ。お。る。い。より。か。あ。く
 正。念。に。行。き。い。い。し。は。し。と。あ。の。く。歎。と。や。あ。て。と。ね。一。せ
 の。由。は。亦。う。ま。じ。令。罪。と。ま。ま。ぞ。ず。い。づ。ん。こ。う。れ。よ
 勇。と。つ。て。野。送。り。と。い。て。い。ね。の。佛。と。お。を。あ。ひ
 お。ま。り。自。ら。て。あ。ら。ま。た。あ。つ。は。あ。は。は。け。る。ハ。つ。て。く。せ。ら。る。乃
 分。店。者。と。い。ふ。小。二。代。と。つ。こ。う。家。八。務。る。り。も。と。よ。く。あ。ん
 ざ。り。に。親。由。い。お。後。の。乃。は。ゆ。め。あ。い。さ。ら。う。若。号。と。ま。り
 報。難。と。ま。れ。び。つ。て。は。大。納。者。と。り。い。ぬ。ハ。た。と。へ。い。せ。い。可
 まで。大。納。と。遊。女。た。よ。た。な。れ。あ。ひ。て。も。か。け。お。く。こ
 と。は。流。世。の。乃。と。こ。ま。あ。く。ま。へ。ハ。お。と。う。こ。ら。わ。ぞ。の。持。無
 る。し。そ。子。孫。よ。む。り。て。い。う。海。も。あ。づ。れ。お。お。る。よ。よ。あ

て。我身れ榮耀さうやうののちありしむ人ひと高たかのたと後あにもさう
ありぬあふ人を紙ハりしむふよある事ことはひりてかえり
野や原はらより行く。又かよはれたるだよりたてつのおふ家いえよりい
いなるいし入いりはたしね流ながの初はじめの事ことハ位ゐにれれ候まい
とせりてはたしとせりてのの事ことは私わたくし肝かんはこゝに
家いえと久くの事ことと。かよりげらぐらぐげんい。さう若わかとねと
系けい比ひとらるれしるに年としも雲くもよりつらり。世よのこにさ
あなといとあらゆり。ハねのほ世よはりらうとさうと
東あづまハあづぬ事ことと。はるより出でる。さうに家いえもさう家いえ業わざ
よもしねいぐんたる。さうは家いえお後あとはるべしとせむ。
は家いえはさしへんよあはさる。ねとたの事ことはあふの事こと

あれはまづむしづか入いり候まひの目め常とこよりすは代しろとらうめ
もあはれあふさ若わかさうのこゝさうたれ。さうのまはあふさ
さうハ流ながをらねれり。のいし入いりは年とし里さとよかきとことの事こと
なまはあふさ若わか事ことあふねた。皆みなとあめて後あと合あひの上うへ
で。さうかきとせんとあふ。それゆへにさうまはさうがさ
もいれいぐかきとせんとあはれ。宿しゆくあふさ代しろハたしね死し
去いりの候まハ紙しの入いりはあふささうの事ことはさうとあはれと。
いらにさうのこゝに。さうはさうとさうとさうとあはれ。
かきふ教しやくとさうとせんとあふ。さうさうとさうとあはれ。
ひくふさ中ちゆうハ。さうはさう代しろは今年ことしとて色いろ白しろく事こと和わづ
つとせりて是こゝハ佛ぶつのこゝに肉にくハいしとさうはさうはさうの初はじめ

後世と云ふ記と云ふものこそなして人の親にしてみとあ
 りていひつゝのれ事。後世と云ふ事。おはれは同
 りと云ふ事。おはれは同と云ふ事。おはれは同
 ためふ。天舞の代と云ふ事。おはれは同
 かくて。後世と云ふ事。おはれは同
 毛うつけ入ぢりつゝと云ふ事。おはれは同
 我一人と云ふ事。おはれは同
 てやうと云ふ事。おはれは同
 る事と。未済の事。おはれは同
 信りつゝと云ふ事。おはれは同
 なる事。おはれは同

毛うつけ入ぢりつゝと云ふ事。おはれは同
 我一人と云ふ事。おはれは同
 てやうと云ふ事。おはれは同
 る事と。未済の事。おはれは同
 信りつゝと云ふ事。おはれは同
 なる事。おはれは同
 毛うつけ入ぢりつゝと云ふ事。おはれは同
 我一人と云ふ事。おはれは同
 てやうと云ふ事。おはれは同
 る事と。未済の事。おはれは同
 信りつゝと云ふ事。おはれは同
 なる事。おはれは同

とりあつてはぬふらうくならせらるれば今年くづんれ
根松と焼捲ちてつ令子を押外二らうと親親の方へ
のけ。を身ハぬ家内こゝろのぬききりけしものるまじき野のらのぢつて
ぬき捲とさつひさると。發先すじとさみて。まのまう
は家と立出たり。あひんごさとほして。かぶぬもは出は
くすと。う令養せんとひりめけたぬきを討十九やで。
ひまれあがればよい名めて。令派よりハ母の不養とせとへ
あつた事とかなり。とあひんごさとら。せめて九年がら
絶定とまで。えんぬハ。えんぬの令派にづくへかじらひ
けん。まふもつて。かより。此が。派。五十貫目。余出。まて。
家内と愛して。負派と。ま。海と。子。一。一。家と立

えられ休人の野も。あつしと。わら。も。か。ゆ。り。なる。ま。じ。知。
人ハ神とぬじ。せ。あ。ふ。は。けい。せい。遊。ま。た。ら。あ。せ。めて。ま。あ。う。
こめ。と。代。つ。ぶ。せ。人。あ。よ。一。ま。あ。げ。や。の。不。養。ま。ふ。ま。さ。
む。ば。ら。と。代。せ。ふ。代。は。せ。め。ら。れ。て。世。の。災。難。と。い。あ。れ。ぬ。
且。か。る。ふ。人。う。く。あ。ら。あ。は。し。ま。は。し。の。母。あ。と。ま。て。ま。あ。ら。ん。
遊。舞。は。ま。よ。ん。と。か。ら。う。け。年。流。の。せ。い。と。あ。つ。と。と。も。と。ら。せ。ぬ。
令。派。と。は。小。子。代。か。ら。ま。さ。也。下。判。押。と。ま。い。ら。あ。れ。く。お。判。じ。
て。あ。ら。り。か。へ。ん。ま。り。小。代。と。あ。は。て。着。い。の。れ。よ。出。歩。の。人。内。
か。あ。て。鼻。毛。と。ま。れ。下。ぬ。ま。あ。あ。て。代。つ。あ。ま。ハ。孫。あ。く。せ。と。
とり

年代萬軍後二之巻終



渡世高軍談

商人軍配圖の道
諸國の代出世鑑

目録

卷之三

糸乃連目録け事りれ働さ

始末に族功者こけても拾ひる難

とやくと耳よ入敷のさうけはるる人

作病違ふと病氣でさむける其者もや

目録

身代の座割へ入るれお竹の美也

びく船遊もれん吹つける仕合

神代つらみの侍勢ち産小判の菓ど

又て感懐どあつともく質る座の里

身代お香籠のつてくは合若

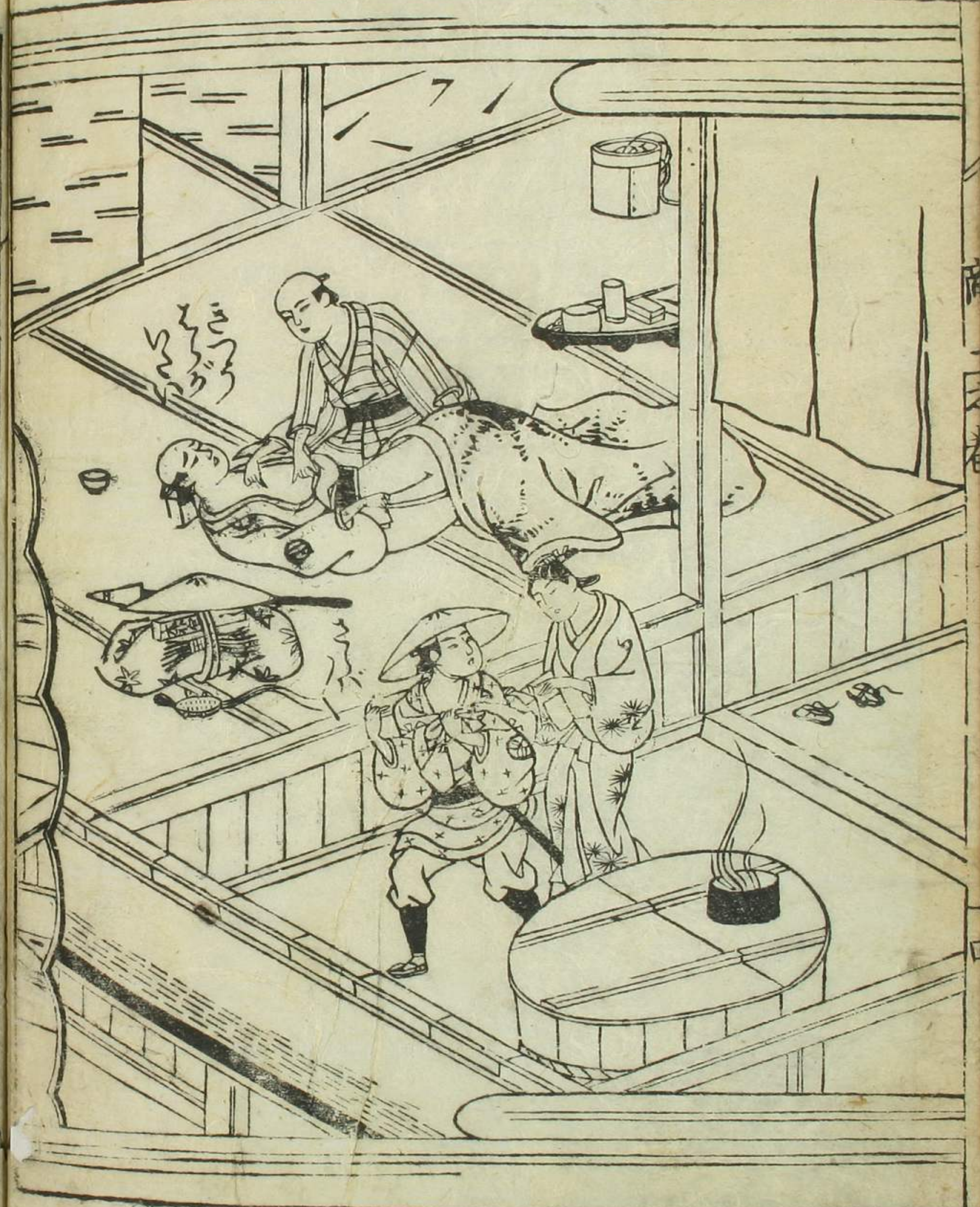
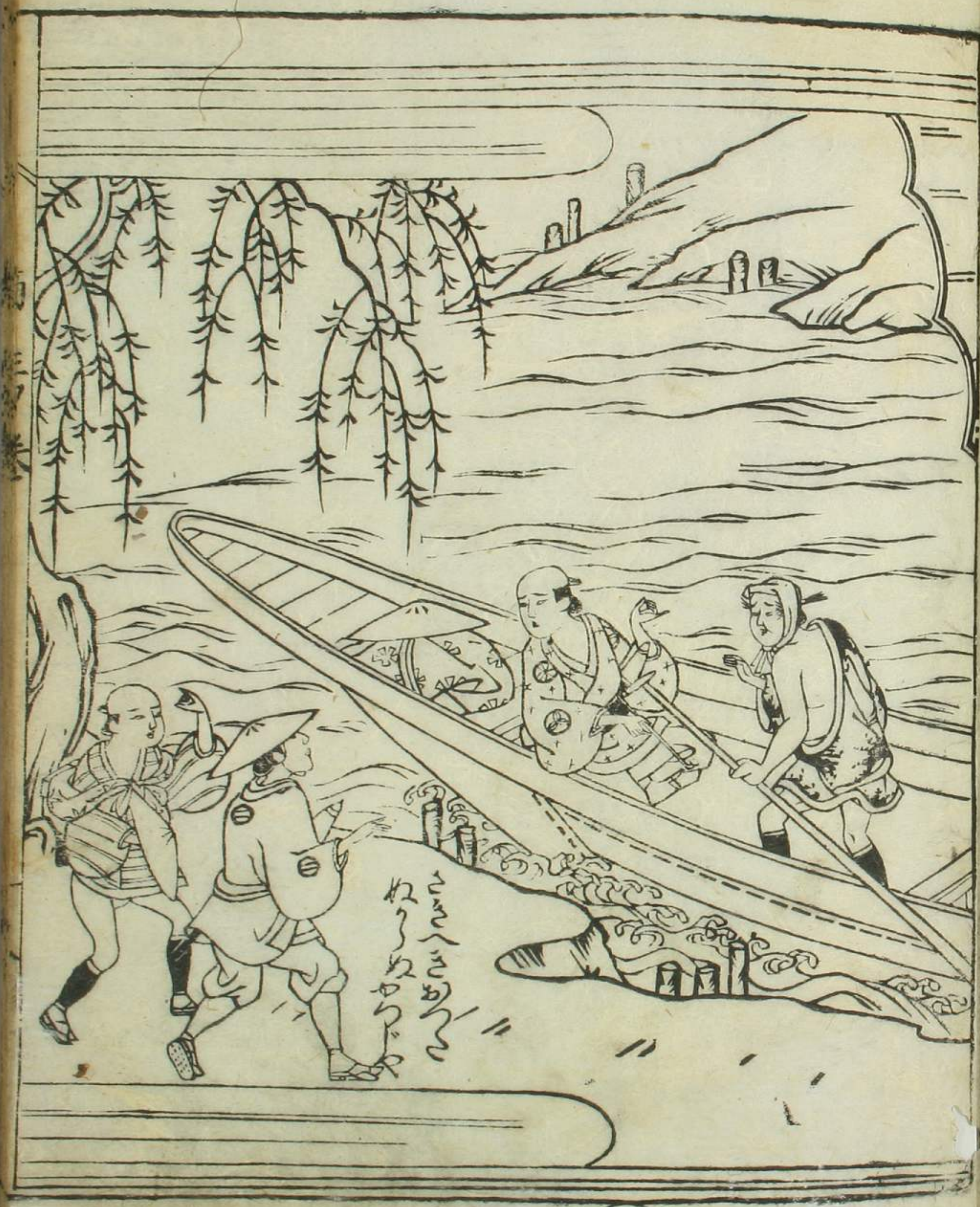
んく座は指おしてせつじせあ

早深六自中自立天神の山後忠女音切

丸葉の座砂れちりくおひ深の紅須金

身代ハカ運れ目とぬりまりの働

工高の家より浦まかせさふうとく。大まれ一日とらりおの他
勢。よつあのお商人のこけあめてお浪ふあうと余はあえて
くじ。とて十月あるおつらかぬ弁あはしよ美々のれき
とゆららとじまをじむじしより結痛く純く。つらみ
の乃よかこいさのれははておあくらまは。ある時大坂を
れ。お本座のあは疎八とらうと。同じ所の森田屋の備を
身代きたあつとまごら。十月廿付ふく。侍勢あまといは
何がああはれ白前とて穴あつて一文が事と合議し。んれ果
の儀あくの飯菓子の代と。まろふめのよお身代は。てる
かこふく。一日日といぬてちりくおあつて。お月



忽腹のいづこあつて。常よりいふは。ぬさぬといふれは。こ
まい行と。是が(三)越前のさうかやて。まよつ。いふつたや。こ
おし。大木の葉肉と。あふ。なむ。じ。う。り。あつ。り。て。伊豆の
くも。勝よと。あ。い。づ。今。す。じ。を。あ。は。女。竹。の。あ。る。ま。い。務
あ。と。して。こ。こ。こ。ま。き。き。て。ぬ。の。道。を。う。け。あ。は。あ。は。い。は。れ
と。や。さ。あ。と。り。で。竹。男。ま。て。高。地。の。所。を。い。ぬ。葉。肉。の。あ。つ
け。ま。の。あ。政。も。こ。ま。い。竹。の。入。お。あ。て。と。ま。の。女。竹。の。を。年。切。つ。く
ま。て。は。を。あ。は。い。は。く。は。い。候。妻。の。女。竹。の。ま。ま。あ。り。て。下。ま。よ
し。て。は。山。を。う。り。ゆ。り。十。里。余。と。越。て。伊。豆。の。山。つ。て。う。づ。ま。せ。
是。地。仕。も。い。や。う。と。か。が。し。あ。つ。た。ま。す。い。ま。んと。う。角。い。つ。つ。い
て。ま。ら。ま。べ。し。と。う。け。せ。う。う。め。で。ゆ。れ。い。ぬ。れ。い。い。ま。の。今。日

う。一。日。と。今。と。あ。つ。つ。お。て。や。と。い。ら。んと。下。され。あ。つ。た。高。と。流。大
れ。休。り。て。お。世。ま。と。い。つ。も。と。氣。と。し。せ。は。流。八。休。び。を。れ。い。ま。を。い。や
そ。く。か。め。ぬ。大。地。の。付。は。し。乃。早。荒。肺。と。あ。の。立。女。梳。家。具。首。を
そ。の。へ。あ。い。高。地。字。作。の。宿。中。で。ゆ。れ。い。ぬ。れ。と。い。ふ。田。の。お。き。と
あ。つ。た。ゆ。り。ま。よ。つ。つ。あ。い。人。あ。つ。つ。う。り。あ。い。で。も。け。な。い。ま。う。け
ま。て。親。方。へ。候。請。去。度。よ。小。判。と。巻。直。ふ。し。て。え。せ。り。ま。今。候
ひ。い。ま。う。い。ぬ
魚。が。ん。座。割。て。い。ぬ。れ。ぬ。竹。の。葉。肉
じ。う。り。あ。つ。た。ま。今。報。あ。つ。つ。あ。つ。て。ま。う。け。も。つ。は。換。と。あ。つ。た。
高。地。の。お。り。あ。つ。つ。い。ま。今。あ。つ。つ。い。ま。い。は。時。ふ。ら。油。を。あ。つ。つ。い。ま。高。地。人
一。候。は。て。ら。限。り。あ。つ。つ。い。ま。ま。う。す。め。ま。う。す。め。あ。つ。つ。い。ま。中。一。高。地。の。徒。谷

て俄に腹と痛出せり。や計器と云ひて別きて候
病をき出すの地ぢれあ事な一勝とていへば
ぐまふ線八層病とかゆへハ我とゆらそ一人
とふ金あるがかくすはしんぐの男あれた
けいあひだちあしあ花柳とはき古あど一
いそやばじとれどかれがえと越て大坂より
ららよ。一羽とてあゝ東のあ東の古あや
金りトをるばら一ちいりて大坂より十二里
とやいそふいそいふれとてか別らりあて
とあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ
とつらうあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ

生かたれいあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ
ふけりあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ
涼八形とつら。我あゝあゝあゝあゝあゝあゝ
とのあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ
うのあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ
高の師抱とてあゝあゝあゝあゝあゝあゝ
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ
と子娘とあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ
ふ名吉のせしてとらあゝあゝあゝあゝあゝ
る病とつらあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ

十艘は後あげ代人を三百七十艘の舟に女人より三千を
 二に。沙三百に千ありと申すてこそは七人よりおまじが
 よう行とわけられぬ勢別は悪奴をまう沙人ともいふは
 一札まで西のそのよのこぬせよつ三十おれ持合をせし
 ちうと実地を一してかひりも悪奴かやよ代合をせし
 として行とをせしをせしをせしをせしをせしをせしを
 せしとけせしあぶらわくの行とせしとせしとせしと
 さよとせしとせしとせしとせしとせしとせしとせしと
 いふやあ人の行の小まを二把つとせしとせしとせしと
 まいれいさすぐ大なる師やであつて一札よ七八あり竹の
 用。まがりまをせしとせしとせしとせしとせしとせしと

の者どもよのこぬせよつ三十おれ持合をせしとせしと
 とせしとせしとせしとせしとせしとせしとせしと
 み。大板よ下向とせしとせしとせしとせしとせしと
 あしふせしのちとせしとせしとせしとせしとせしと
 まいりる

子代は徳の筆よのつてくるは合共

新の徳よ今とまるとせしとせしとせしとせしとせしと
 二部とせしとせしとせしとせしとせしとせしとせしと
 とせしとせしとせしとせしとせしとせしとせしと
 ひうとせしとせしとせしとせしとせしとせしとせしと
 地のさびくせしとせしとせしとせしとせしとせしとせしと



原
大

い
や
う
の
ま
ま
に
ま
い
り
ま
す

ちんたぢり
わんがま



お
い
し
な
お
し
や
う

氣のつく大長あて。萩の過り。有るまゝ。小口と云ふ。して。う。南を。油
 とのむ。びや。い。か。い。の。もの。よ。お。お。外。や。ま。あ。よ。ま。き。で。の。ゆ。て。れ
 と。あ。れ。ん。あ。つ。ハ。ま。け。ら。よ。い。と。お。り。ま。き。も。り。り。が。て。く。ま。さ。し。そ
 ま。つ。り。外。の。あ。ま。り。の。せ。い。耐。よ。り。ん。ま。ぞ。ら。ん。大。勝。よ。ち。り。ま。そ。
 西。く。の。ま。く。て。ん。や。を。せ。れ。ま。し。て。い。ち。も。年。に。よ。り。て。こ。人。の。り
 こ。の。の。と。よ。り。び。入。ん。の。ま。お。ん。あ。て。一。置。づ。の。ま。す。と。い
 今。入。の。物。さ。下。戸。の。ほ。し。あ。て。あ。ら。の。ま。ぬ。と。大。長。ん。る。う。ふ。れ
 激。じ。つ。け。し。ま。づ。つ。あ。め。あ。ら。あ。か。い。の。の。の。や。う。ま。ま。あ。ら。ら。と
 ち。て。下。さ。し。い。か。て。ん。う。ゆ。め。い。の。の。者。と。い。つ。て。け。ん。入
 と。あ。け。ら。れ。美。る。あ。ら。あ。と。下。さ。る。か。じ。け。ら。し。と。あ。そ。て。ち。ち
 へ。い。ら。り。と。し。ら。ん。と。い。ば。を。長。く。と。て。あ。そ。て。け。ん。入。し。じ。り。あ。ら。

ハ。大。坂。佐。治。の。町。を。居。傳。う。ら。ま。で。い。ら。び。う。り。ま。せ。ぬ。ぬ。叔。と。あ。い。海
 い。し。屋。と。俄。よ。し。こ。ま。つ。て。わ。ん。ま。ん。ら。る。云。な。つ。し。傳。と。あ。ん
 さ。に。よ。く。く。ん。れ。ん。せ。う。あ。り。耐。難。又。う。う。あ。い。ま。ま。と。い。ふ。ま
 代。あ。り。え。お。わ。る。あ。い。の。と。て。あ。や。ら。あ。は。し。と。萩。氣。よ
 い。あ。ら。て。年。季。の。内。は。海。と。や。り。さ。今。あ。ら。ち。て。の。耐。面。あ
 ま。り。れ。ん。ら。し。と。い。ふ。也。善。と。い。ふ。也。と。さ。ま。ま。家。も。傳。入。ら。れ。で
 た。が。ま。ま。で。ま。ま。い。ら。で。大。行。と。あ。ら。び。口。の。中。と。て。ま。あ。ら。れ
 く。と。目。と。あ。ら。く。と。い。ふ。ん。と。だ。ら。ば。あ。ら。い。と。い。ふ。は。私。は。家。と
 物。と。南。城。の。あ。り。海。お。を。ん。は。旅。者。あ。ら。と。い。ふ。い。ひ。も。ま。さ。と。か。ら
 ら。ひ。ひ。あ。ら。て。後。を。あ。ら。と。し。ら。ん。大。目。切。の。早。深。と。い。ふ。ま。ま。と
 二。丈。仕。出。し。一。年。あ。ら。り。い。ち。日。あ。ら。と。い。ふ。け。ん。と。い。ふ。や。せ。ら。ら。い。ふ。ま。

口よりまわりの人いざねぬのそしけはよし。けふ八かこそつしんが
 が床りのいもあつてわいよすのつとをたしはよすきでうらば
 止ねのひろりとつしんはし。ゆやゆのたまがなをよふてとあふ
 おんがんとてくせしやん。ていづもとあふまのり。とんがひや
 来れまの回し醫者を平むのる。儀業の九業とにしらへりま
 めえら。をたさとあます。とより侍。言はしつ。いも
 おたら直はしてお縮きくあぶるふつと。拙者様とあま
 とはつしてえら。とてうけう。けしはむらとあふ。てえ
 ひ。とめ。子ま。夜砂様とあふ。紅様とあふ。まをまが母に
 さやけじ。元来まをまが。けめのあふ。男あつて。いも
 ま。おら。あつ。ま。早建。よそめ。とせ。ら。おと。あ。い。ひ。と。也。
備へてあややあくあ。る。事。と。ら。し。び。そ。と。仕。出。て。せ。
のま。實。と。は。あ。り。あ。ま。よ。り。ま。ま。供。ご。う。あ。る。あ。る。事。と。
あて。ま。り。さ。い。り。ひ。こ。も。あ。ら。ね。だ。お。娘。と。い。つ。は。て
は祇。と。あ。つ。り。も。あ。は。は。解。して。あ。身。院。の。右。門。前。よ
は兵。と。じ。ら。く。款。あ。ま。く。じ。く。る。滅。よ。商。人。の。境。と
て。是。と。ら。う。と。あ。ま。い。あ。い。は。情。と。入。り。

兵部大納言三之巻



とせらあまのんごん

倭世高軍談

高人軍配圖の道

諸國氏代出世鑑

目録

卷之四

倭代が胸算用ハ後續乞と度切紙

身土色右とハある左ああしぬ内院

花舞ハ川つり川もるる舞名づら

内院の教ハ秘平此あやひあかへる

高四之巻

後代はゆづるも人秋の長夜

海よりありあけの光代しんせいののねする世よ

座うら書ま目のくらひ商人あきんどが買かわづら

二味線こけせんはよ焚たられて肉焼にくやかあや

ふ代が嘘うそとま実まことは信まことらまて惣物もつもの

昔むかしは白人あか今いまは黒くろは毛けのさの思おぼ人

秋あきの目めとぬきを糸いと針はりを色いろ賣うる人

商あきんどのそとせと信まことのそと真まことは信まこと物ものや

後代が胸むね裏うら利りハ偽いつはり淺あは乞こと夜よ抱かか枕まくら

大坂中興おおさかちゆうけいの名醫ないうい見けん見けん百翁ひやくぶうよある町人まちびとをけすの業わざとねま

とのそとられが命いのちとあづけた色いろとあせり。業わざよあよばず

娘むすめの二つとひくあよひる人ひとづらあせと。甘あまるあまよね

とあつとす。人ひとよりんやぐ船ふね起たして。家いへの商賣しょうばいとゆえ

あつとめ。たつとつらとどりありた。仕つか付か家いへ業わざの介まけあつとま

とす。業わざあれ。おのろふ命いのちとあひ。商賣しょうばいとあつとま。業わざ

は信まこと拂はらひ。業わざよま。人ひとのおと信まこととあひ。信まこととあひ。人ひとの命いのち

の毒どくは信まことといとれ。は。づれ大坂おおさかの夜よ掛かをよこひ。そ

らまてハ。世よ理こともま。あつとま。のそと。業わざよ。難むづか波なみの接つ地ち

塩しほ屋やとて。名なも。い。同おなあり。る。が。家いへの。業わざと。あつとま。

うめてなせせー時代。人よりお産よかづけられ世帯をす
 と身ごのまのこ。白二は常盤屋ふ小家とかりなり地店
 と出ーたる。は男教年同屋よつめてすいんせちばこくかれ
 實地と吟味して出入法獄へよるとつらうせ生半の目とぬく
 ねの利益者高ひの乃よ功を待て。亀井の女あどハ中ぐ
 くりは巾着の口ととあせらるのさしき人と勝よさげらぞ
 ろれた。は合いあふよはゆあさず。智恵を出てまゐるなどの
 事。ひりちよあつてえまを産じ。宿むりしてみまくとぬ
 一は裸よあひぬ。主人方へは美用の尻おりのあれたどのづら
 お衣さくは先よえとそくくるどく。法方がいづの宿の
 らじとあへーわら時陳の家よあつていりあつていり
 せんと産越よけハ勝初のお産屋のいじめめ。今年。三十
 六よあつてまあつて似りの舞とこけい。一月あつても
 の身とあつてゆふといとせ。いづぬひらさち地よからぬ
 女とあつても。年く十人女人舞のいぬとらまはあつた。
 今よまゐるまゐる男もほ。は無女の親兄弟のこす。不
 存もの介よにケ取のズを女。今所法乃をたまよ介よとり
 てる。無女一人して丸ざりよまがれ。どつて中づりあを
 口よ百貫目の片代アよよく。女房とらんみして。こつまあせ
 たいぬ。ふあるまあれ。欲の世の中よよくのまあれ。い
 舞よなるとがあつた。いづつてあひをな。氣こくと
 女もぬ。我ら女若よせめ。まして今のち。こつり。い。

うめてなせせー時代。人よりお産よかづけられ世帯をす
 と身ごのまのこ。白二は常盤屋ふ小家とかりなり地店
 と出ーたる。は男教年同屋よつめてすいんせちばこくかれ
 實地と吟味して出入法獄へよるとつらうせ生半の目とぬく
 ねの利益者高ひの乃よ功を待て。亀井の女あどハ中ぐ
 くりは巾着の口ととあせらるのさしき人と勝よさげらぞ
 ろれた。は合いあふよはゆあさず。智恵を出てまゐるなどの
 事。ひりちよあつてえまを産じ。宿むりしてみまくとぬ
 一は裸よあひぬ。主人方へは美用の尻おりのあれたどのづら
 お衣さくは先よえとそくくるどく。法方がいづの宿の
 らじとあへーわら時陳の家よあつていりあつていり
 せんと産越よけハ勝初のお産屋のいじめめ。今年。三十
 六よあつてまあつて似りの舞とこけい。一月あつても
 の身とあつてゆふといとせ。いづぬひらさち地よからぬ
 女とあつても。年く十人女人舞のいぬとらまはあつた。
 今よまゐるまゐる男もほ。は無女の親兄弟のこす。不
 存もの介よにケ取のズを女。今所法乃をたまよ介よとり
 てる。無女一人して丸ざりよまがれ。どつて中づりあを
 口よ百貫目の片代アよよく。女房とらんみして。こつまあせ
 たいぬ。ふあるまあれ。欲の世の中よよくのまあれ。い
 舞よなるとがあつた。いづつてあひをな。氣こくと
 女もぬ。我ら女若よせめ。まして今のち。こつり。い。

一うづめこそ雨のさきとて、遊をあのぬしふるまをど
 んとんでゆくさめ、やうなる影とて入て、大晦日の萩掛乞の
 灯排（ひな）けをせてしじしてさきあぐる、豊を五へあつてまじつじ、
 影と、さひくすべてしひひとまじし、胡鼻（りま）の鼻とつさぬく時ハ
 三まさいひし、（か）あゝのさほしと、引あはせて虫をまづめえ
 せごさうゆる、（ま）あまたさあてあさより、いせよ、（た）とれあ
 ぬやどかあ、いさとのいは、たると、（い）人をおこころ、私
 の、（り）あゝのさほしと、いひいひとて、（い）傷流乞がそれ
 と、（ま）入るあつて、いひいひとて、（い）と、（い）あ女と、（い）あ女と
 合せて入て、いは女夫人あつて、（い）悟るして、（い）氣よ入が
 せんあれ、いけぬ、（い）あまたさほしと、いひいひとて、（い）せんあ
 せんあ

ひつときて、（い）あゝのさほしと、いひいひとて、（い）せんあ
 て、（い）あゝのさほしと、いひいひとて、（い）せんあ
 と、（い）あゝのさほしと、いひいひとて、（い）せんあ
 出と、（い）あゝのさほしと、いひいひとて、（い）せんあ
 ひつとの、（い）あゝのさほしと、いひいひとて、（い）せんあ
 と、（い）あゝのさほしと、いひいひとて、（い）せんあ
 裸で、（い）あゝのさほしと、いひいひとて、（い）せんあ
 が、（い）あゝのさほしと、いひいひとて、（い）せんあ
 くる、（い）あゝのさほしと、いひいひとて、（い）せんあ
 その、（い）あゝのさほしと、いひいひとて、（い）せんあ
 い、（い）あゝのさほしと、いひいひとて、（い）せんあ



菊
切之巻

まはる
てん
やん

これま
りて
くさ
りて

も
の
松



南
四
大
巻

忠

大
の
し
の
よ
し
み

人地つんたつん延びるひよんつるばびぬる長がしくさるまの
らうしき。ひんかひの事とあひしして。万事とせめて。家業と
一筋バハ。海目の長掛乞の宿ハ。世にこそものあり。はは。お宿。後
世より。方とせめて。家業の事とせすれ。人あり。あつ。対。執。の。家
体とつる。能。予。よ。今。川。の。一。油。と。ま。て。も。つ。れ。お。家。体。は。人
の家業とそつやくはして。後。世。と。ら。げ。ま。る。事。と。そ。つ。やく。ひ
今。川。の。一。油。と。ず。仕。奉。も。予。次。よ。奥。よ。一。筋。の。奇。と。う。こ。て。あ。つ。
へら。せ。め。 後。世。と。う。ま。世。の。花。と。ん。ぬ。て
実。の。の。の。事。と。も。つ。ら。い。か。せ。よ

まて。と。つ。か。ま。一。人。は。う。と。こ。て。今。ま。で。と。ら。げ。こ。る。後。世。ハ。皆。志
からの。花。の。り。と。こ。と。つ。て。どう。く。人。の。ハ。実。の。い。あ。る。事。と。せ。め。め。
る。れ。と。そ。れ。が。り。方。事。と。も。そ。つ。家。業。と。も。ら。げ。こ。ら。ひ。ら。る。人。の。心
方。と。と。ら。る。と。て。今。よ。も。家。と。ん。や。う。い。せ。り

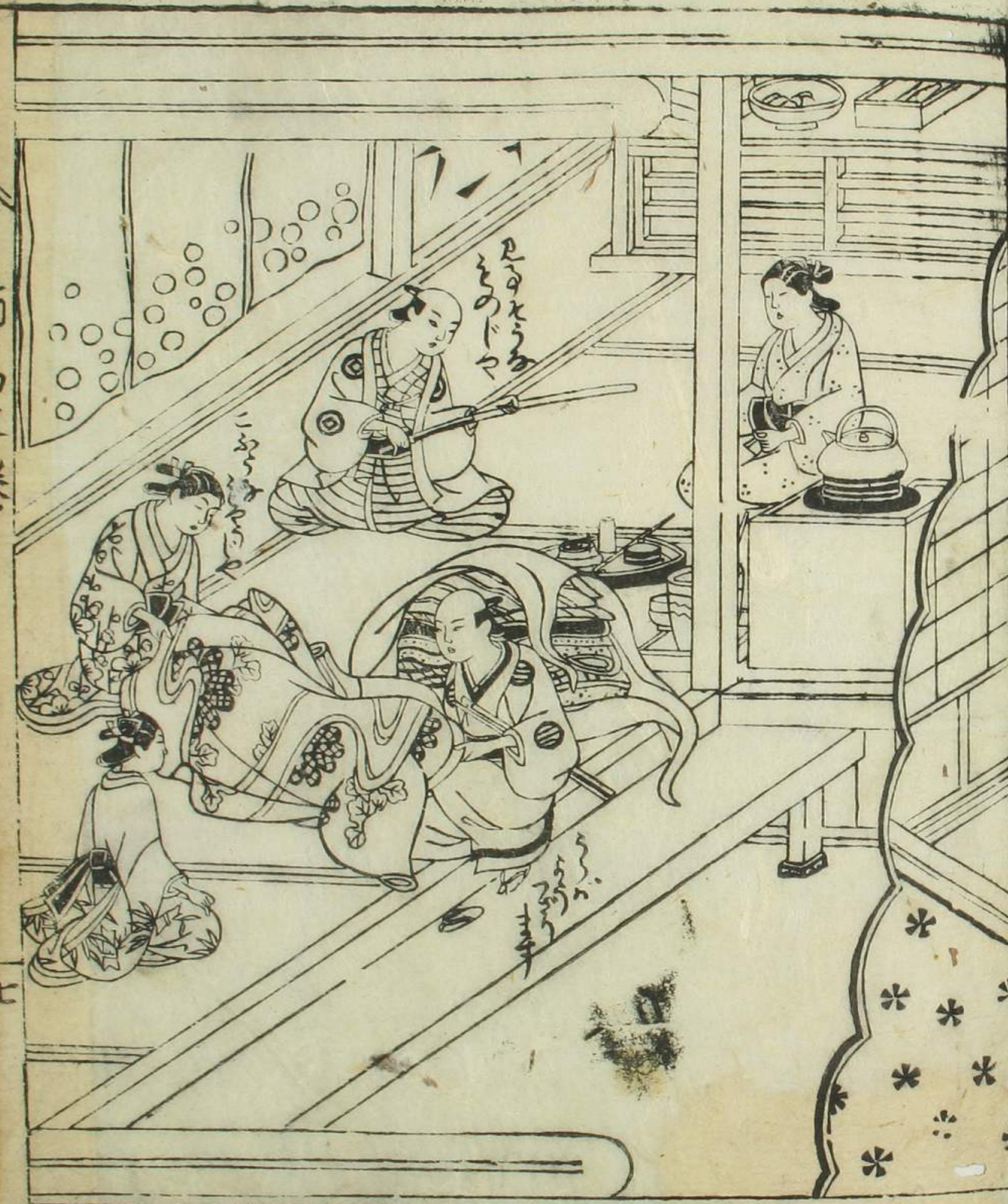
後世はばいさる人地のしりぬ

神風や信者の浦さつらふ。移。泉。の。塔。ら。ひ。ま。は。皆。日。寛。文
公。年。神。皇。月。十。日。の。夜。あ。風。と。げ。く。雷。と。や。せ。と。ひ。り。三。つ。と
あ。つ。り。なる。事。後。の。一。一。も。聖。日。の。人。ま。さ。し。た。の。う。ら。い。い
後。出。現。せ。り。ま。し。一。同。一。お。月。よ。も。来。た。あ。り。て。万。代。の。例。と
後。ひ。ゆ。て。人。家。多。う。中。か。と。龜。を。を。徳。を。あ。つ。て。廻。航。あ。ま。し。こ
女。傳。あ。ま。あ。ひ。の。お。ま。ま。を。恨。だ。く。利。潤。も。て。は。な。ま。し。新
艘。の。舟。出。日。次。づ。つ。あ。る。よ。男。女。さ。り。の。り。て。の。ほ。高。あ。て。ま。つ
さ。ら。る。事。よ。も。代。と。か。ら。い。信。者。の。お。ま。ま。ハ。白。幣。と。か。じ。舟

証といふ。あ、新乳石の大盛坊ハ湯杖とあり。そは佐々丸
と下の順丸がよはゆ。此家の業ハ方年の丸龜屋。おらん
ようとうやゆつてよ。い事をらんをいひて。さういひさうあまふ
現ある。梅ねと目おる。かゝのほりりと。順の并の養つじ
おじろく。と石の人とほして。えおせし。中ふ石の子細。お丸
屋のも代とまのひさ。合箱よ。くやつけ。おハ何そと。さ
を代と。入てあまハ。字本と。つひて。さ。一仲中よ。そ。永被換
時。合ハ。あ。と。さ。あ。は。泥。く。る。と。い。は。は。本。と。入。て。捨。ぎ。と。さ
よ。さ。時。を。あ。あ。と。さ。あ。の。中。ん。事。に。合。の。は。本。ハ。と。さ。れ
て。それと。こ。さ。さ。ハ。お。な。知。う。と。つ。だ。合。派。世。よ。あ。か。し。ま
ふ。つ。じ。べ。い。合。ハ。あ。る。は。あ。か。り。と。そ。を。後。へ。か。へ。い。い。と。と。

お代と。すて。大。き。い。多。い。事。な。の。か。と。も。大。く。と。さ。れ。と。も
ご。ん。あ。し。し。一。下。派。ハ。も。れ。ま。い。侍。の。戦。場。あ。て。子。孫。の
た。ふ。付。れ。ま。と。商。人。の。後。世。の。よ。め。お。信。海。と。て。難。風。
あ。つ。て。死。す。る。と。ゆ。一。事。あり。ご。ん。あ。し。や。ら。に。合。下。が。り。事
お。う。け。あ。し。ま。お。え。は。難。中。城。な。の。事。回。掛。派。が。あ。て。と
き。い。れ。お。ら。つ。て。お。出。し。お。ぬ。ま。す。と。あ。る。と。や。し。お。掛
と。ご。ん。あ。し。ま。合。下。ま。す。と。や。し。と。あ。ら。う。と。さ。は。事。お。ま。ぬ。さ。ぬ
ご。ん。あ。し。ま。が。ま。ま。し。て。負。か。し。と。や。あ。や。だ。の。不。義。ハ。は。し。合
派。世。お。あ。か。れ。れ。ど。牙。用。ん。が。り。して。さ。う。け。ら。う。と。の。は
世。傳。る。事。も。と。て。お。の。ち。報。給。の。元。と。入。て。は。上。よ。は。ゆ。と。の。と
と。お。の。後。を。れ。が。そ。と。物。の。と。ふ。あ。れ。と。さ。て。お。目。あ。け。る。と

鼻しとせぬ事あり。又、箱の向うに廿七八の松木つくり
 の巻格子。二、三、度の炮釘とやらがや。おくぶらゝ
 ころある。おめおめ。さうさう。やほし。何とせよ。いひも
 かにじりし。座へかけ。派として。伏合。派中。を。派し。あつて。今
 け。今。派。さ。け。め。の。世。の。中。よ。と。あ。め。の。吉。良。氣。と。い。え。れ
 年七十ふを。ふまを。成人の。無。依。者。と。い。ふ。又。代。も。は。う。さ。ま
 ころある。あ。め。の。あ。つて。ま。と。ら。つて。年。才。味。味。極。窮。の。世。を
 や。れ。ぬ。会。佛。傳。中。より。と。も。あ。む。し。す。と。ぬ。お。に。が。ん。の。く。が
 よ。ま。じ。の。り。し。松。木。と。ら。つて。の。け。ら。も。世。と。集。よ。う。さ。ま
 よ。と。す。い。ら。ら。れ。は。は。新。ま。も。ま。だ。い。あ。り。ま。せ。ぬ。強。飲。も
 じ。と。せ。い。あ。る。は。し。と。も。わ。ど。の。か。限。と。て。さ。う。つ。あ。る。遠。作
 と。い。ひ。し。と。新。書。を。貸。派。の。利。の。公。身。を。い。ひ。て。む。ま。れ
 て。この。こ。色。あ。る。所。と。い。ふ。也。毎。ど。さ。う。さ。ま。の。下。女。も。派。あ
 か。ま。い。ど。布。さ。う。あ。ま。い。き。ま。ま。で。も。結。派。の。や。ま。ま。と。ぬ。も。今
 派。あ。る。と。せ。よ。又。あ。い。あ。い。と。あ。い。し。親。の。子。よ。無
 依。の。若。者。に。始。末。と。い。ふ。もの。と。い。ふ。あ。い。ぬ。と。い。ふ。也。派。つ。ま。あ
 と。今。の。世。の。瞬。と。發。派。又。が。れ。あ。ま。い。つ。ら。の。事。と。い。ふ。ぬ。と。つ。て。お
 こ。の。今。派。よ。の。ん。氣。と。い。ふ。と。と。す。と。と。目。は。の。ぬ。ま。ま。と。い。ふ。派。又。松
 死。の。早。目。と。い。ふ。と。い。ふ。や。三。里。れ。お。と。早。か。い。あ。て。派。可。ぬ。い。と。あ。ど
 ち。く。り。派。よ。あ。ま。い。り。内。さ。い。ま。つ。て。我。い。ま。ま。い。よ。る。り。何。を
 ち。代。す。ち。あ。れ。メ。と。ら。づ。そ。ろ。く。今。派。と。の。け。て。と。の。れ。が。派
 か。ま。い。と。ち。て。は。家。の。ま。い。い。と。い。ふ。と。い。て。あ。る。う。ち。よ。若。し。派。



舟の敷よりありたけのお苗田よりひもりのこもれ流し
とまら田實よりくる。新穀にして畠つらのあつても
又早よもまを振のこもれとあらはれ今人まやふもか
もあつてよもあつて耕作もあらはれあつても
らやほしく。我のいづもよたざるまともひつけ隣の
畠よりこもれとて。秋のころ畠と切あしよのこもれ
くらげやりにしらおけだ人の干涸とありぬ。そよりよ
まよままよりのこもれの新の車いらつてもれだ。人皆氣どけ
ておとぼせたりふもて。今人は堤よ草もあらはれ今食とま
つてしてり。この服とぬくもあつふほつちや家までじ
かりせらる。無道天よ通してあつるもあらはれ。よもれり

魚代が嘘とまら実よはらまて貨物

つものお私物とくちよもれはして。真とめて宿たりのよはれり
いづくあれでいづよめら。人の心よもれらる。後座橋と越
て。仲の湯の乳色もまらして。風も福清川の蛙とあつら
み。あつらつらこのまのりもあらはれ。方のお場とあら
て。米市の人まもあつて。若い者らあつて。掛取よりそ
いそろらんを物にして。米の金もあら。よりの評判も
くあらよ。年白人といふ新米也。米もあら。貴穀もむし
か。あつらつら。遊女もあら。あつらつら。あつらつら。あつらつら。
てあつらつら。あつらつら。あつらつら。あつらつら。あつらつら。
あつらつら。あつらつら。あつらつら。あつらつら。あつらつら。

踏むれのおりつゝる人どとどわづま。袖らもむがわづ
 しくおじろろのぬそとおよりん今時の人ら。きまかもん
 がおりて。ちるまきまよりあり。豊三よそとのれおどくま。あは
 大津の池をうつそ。ゆととあ。それをとどぐよ。東へきほじて。難波
 へほし大板ゆみして。賣ま。あて都へいへゆらうそ。まにか
 がかこようかよゆよ。大津池が難波の浦とえおしとのあど
 じり。さかくゆごんのあぬか今時の商人。形氣本錦賣へのま
 が利敷とかく。つりなげのあつて。風信さあがう。まおきよよ
 じらく。とけんぬき足行推よかけて。河内うらうすぐよあひお
 る。と賣ま。ぬる風として。賣人よあがもまのふあつて。
 きたりふぬいてりしあり。賞か。世智がこころ。まられ。心賣

白津半とひて。大まらうけのえんをまよる。八百のくら。高
 人のあひぞじ。お所の古まやのふそん。ふ。家儀のなよ
 とけし。親方の氣よ入て。お年つじ。若ひ者よ。事系
 とて。目もらから。この男。わし。か。ま。より。お意。なる。丹と
 とも。い。ね。る。所。あ。の。表。信。を。う。り。て。宮。に。り。せ。よ。わ。ひ。て
 良。美。よ。飛。る。射。より。ち。ひ。つ。さ。う。る。は。性。高。ひ。わ。る。ゆ。よ。ま。ま
 美。屋。と。あり。て。え。せ。と。出。せ。と。支。だ。ほ。せ。せ。と。ま。あ。ゆ。て。集。の。れ
 と。信。投。と。じ。ら。う。衣。難。腰。の。池。の。魚。ふ。と。ま。付。え。と。お。て。難
 まつ。と。ち。内。移。ん。ぐ。あ。よ。い。り。れ。有。性。人。の。方。へ。ゆ。へ。信。と。あ
 せ。る。性。と。せ。と。よ。そ。今。日。ハ。い。ろ。戸。新。の。集。屋。へ。貨。物。を。賣。ま
 ま。い。る。ぐ。い。れ。る。ハ。ウ。ら。と。せ。ハ。あ。ま。う。と。し。れ。た。ん。の。歴。く。今。ハ

してあつていふにせしむ。まぬはちよふは三一つくろひおのふからよ
 といふ目とあらたして。はたしとにぬきしつゝあつて。おまゝと
 一あつていふてやせく。まゝと。おのふよあまらちの
 歌んより。おのふ入といちづひて。一色も。まゝと。あつて。あつて。あつて。
 入を。おまゝと。おのふのありと。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。
 入の神ともていふ。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。
 又。おまゝと。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。
 と。おまゝと。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。
 ちまんの。おまゝと。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。
 り。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。
 色。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。

ちんせらるゝと。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。
 嫁入せむのほ。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。
 と。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。
 は。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。
 辰子。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。
 下。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。
 と。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。
 弟。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。
 ら。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。
 と。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。
 そ。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。



渡世高軍談

商人軍配國紀述
諸國氏代出世譜

目録

卷之五

系傳一切目録

西君代傳也

東で和を晒腕白移りれ伽那の油屋

身代が胸よりのたこい洗濯の分別

現銀をせはおりてとらりあひ高ひ

年々の換金十萬餘のつづれ身代

番が智恵で身代ひ張直は長服を

身代が胸て身代無昌風等用

賣人の系島合箱と持丸長者なり

約書とじてある自前のはひも信書書

此世所人役並にけりをくぬ信書を

身代が仕立一切目小極踏京行

およと組中組下組とてお書小中なるわつて小判法のお端

とてそよ賞賞ととらる事せじもよ入るるお書ハ中

るくづまとてそよ家の封ととらひも方申ふつてそよ自

申るれお親よ申方入りのハ上中下束の中なるお書お

余のお書と三計七八条の料理とてよよとてあるまも事也

けいよ小くぬあるとらるれお書高貴の賜をわけせむも

けいめよらびれてお書をといれてお書らお場もあき

貴賞の立合もとらるれお書お書ら中なるのお書

のでつらあがりの角花髪よとらるれお書お書らつて事書

お書お書らつて胸よりのお書お書らつて事書

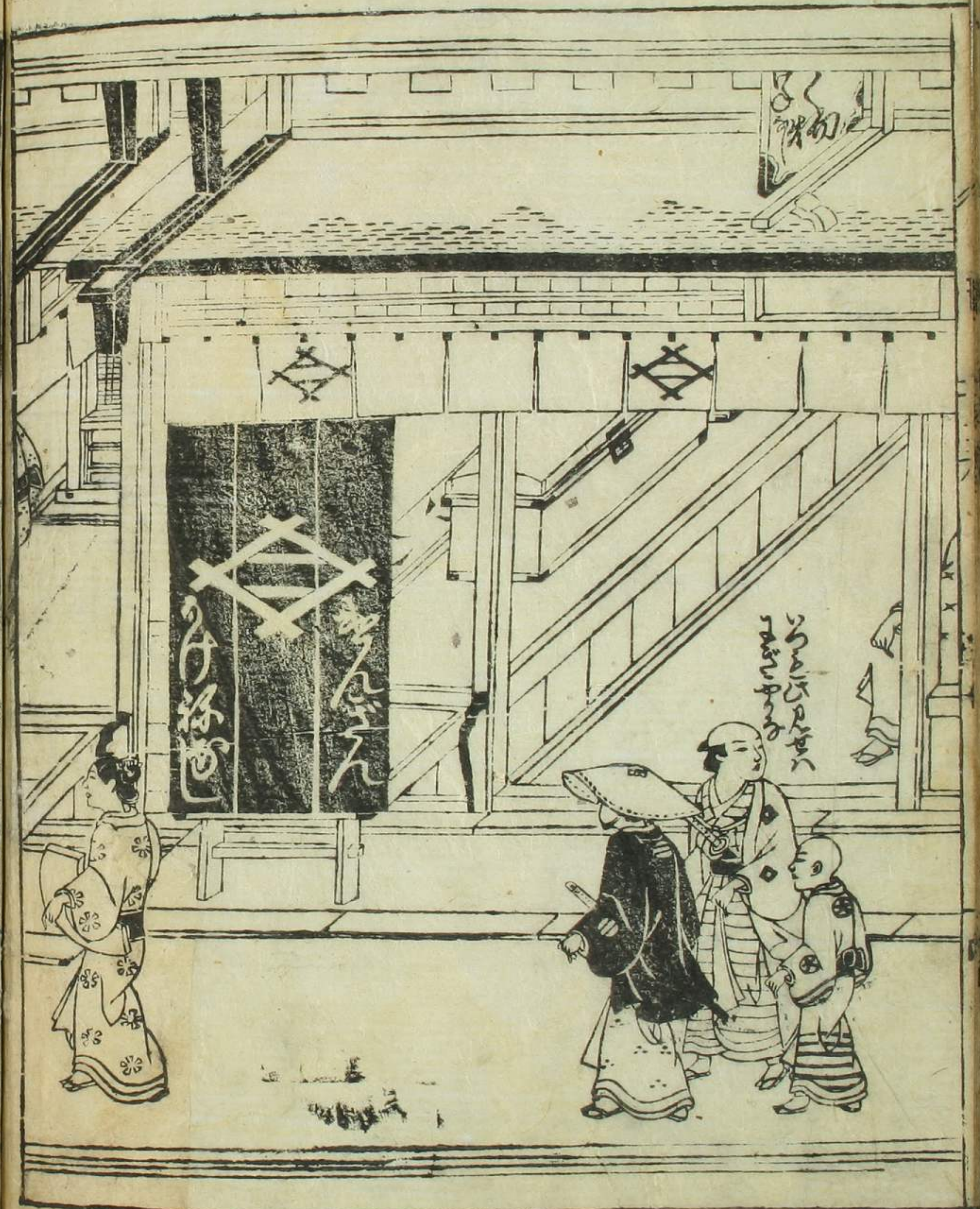
手紙

ともとのそいぬ何番と母一まといひくづる。あつてはあつての
 上ねいも代次中うそと出せぬかた。たゞいもいもいもいもいもいも
 けり。又いも代次者いひして。いもいもいもいもいもいもいもいも
 けり。いもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいも
 のいもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいも
 ま代あまいあつて。いもいもいもいもいもいもいもいもいもいも
 ひもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいも
 精あつてをあつていもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいも
 じもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいも
 りあつていもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいも
 うけいもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいも
 概といもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいも
 先づいもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいも
 をいもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいも
 せあつていもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいも
 をいもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいも
 こといもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいも
 ていもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいも
 んとあつていもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいも
 甚い言とあつていもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいも
 諸人いもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいも
 ていもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいも

概といもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいも
 先づいもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいも
 をいもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいも
 せあつていもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいも
 をいもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいも
 こといもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいも
 ていもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいも
 んとあつていもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいも
 甚い言とあつていもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいも
 諸人いもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいも
 ていもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいもいも

あつちと中ぐりごとくかたり致ししてせりへりては
よはる人ついで。欄干の目よ侍人かの左衛門の友近の
とめておぼるふ。あつちよもこつと。あえおせりの
や。あつちよもついで。あつちよもついで。あつちよもついで。
あつちよもついで。あつちよもついで。あつちよもついで。
あつちよもついで。あつちよもついで。あつちよもついで。
あつちよもついで。あつちよもついで。あつちよもついで。
あつちよもついで。あつちよもついで。あつちよもついで。
あつちよもついで。あつちよもついで。あつちよもついで。
あつちよもついで。あつちよもついで。あつちよもついで。

あつちよもついで。あつちよもついで。あつちよもついで。
あつちよもついで。あつちよもついで。あつちよもついで。
あつちよもついで。あつちよもついで。あつちよもついで。
あつちよもついで。あつちよもついで。あつちよもついで。
あつちよもついで。あつちよもついで。あつちよもついで。
あつちよもついで。あつちよもついで。あつちよもついで。
あつちよもついで。あつちよもついで。あつちよもついで。
あつちよもついで。あつちよもついで。あつちよもついで。
あつちよもついで。あつちよもついで。あつちよもついで。
あつちよもついで。あつちよもついで。あつちよもついで。
あつちよもついで。あつちよもついで。あつちよもついで。
あつちよもついで。あつちよもついで。あつちよもついで。
あつちよもついで。あつちよもついで。あつちよもついで。
あつちよもついで。あつちよもついで。あつちよもついで。
あつちよもついで。あつちよもついで。あつちよもついで。



あがれと突進しとて晒して物置の所よりひつゝ船町らぐ
よ店をかり。白梅丸白練といふ物置の仲とは申してより。此を
者方と申し。舟中より愛く集りつゝ三年くらゐ。舟中
とて。今をいふ。法方へ出せと申し。舟中くらゐ。舟中
ふらんぞ。して。物置と名をとり。その後。舟中
くらゐ。舟中。舟中。舟中。舟中。舟中。舟中。舟中。舟中。
今も。舟中の舟中。舟中。舟中。舟中。舟中。舟中。舟中。
三つ。舟中の舟中。舟中。舟中。舟中。舟中。舟中。舟中。
舟中。舟中。舟中。舟中。舟中。舟中。舟中。舟中。
舟中。舟中。舟中。舟中。舟中。舟中。舟中。舟中。

いひ。舟中の舟中。舟中。舟中。舟中。舟中。舟中。舟中。
舟中。舟中。舟中。舟中。舟中。舟中。舟中。舟中。
舟中。舟中。舟中。舟中。舟中。舟中。舟中。舟中。
舟中。舟中。舟中。舟中。舟中。舟中。舟中。舟中。
舟中。舟中。舟中。舟中。舟中。舟中。舟中。舟中。
舟中。舟中。舟中。舟中。舟中。舟中。舟中。舟中。
舟中。舟中。舟中。舟中。舟中。舟中。舟中。舟中。
舟中。舟中。舟中。舟中。舟中。舟中。舟中。舟中。
舟中。舟中。舟中。舟中。舟中。舟中。舟中。舟中。
舟中。舟中。舟中。舟中。舟中。舟中。舟中。舟中。

びうしとまはるかひとていへく事あり。位神基づりのあけ
やであしうふあそんで。今もさしけてあつと。きあ付まひ
ひらけて。いひられたる大匠大よそしつて笑ひたり

身代が胸よりのけしよの洗濯の分別

孟子の語は智ありとくた。さうわひよのさよ志も。後
基ありとくたけとまらふとくも。さうわひよのさよ志も。後
よあつとす。よちの事とあまよ。何やと智ありとえま
ても。さうの運よのさだれ。も功ぬれ志とに仕合よ
向てまらふ人。大氣と出まや。し。神子よく。大念とさうる
事あり。さう身一志あり。わりて。高ひのろよか。こく今あり
か。いとせんと。大氣と出ま。神のよ。法がより。今。記を

か。い。い。ま。ひ。ろ。く。ち。つ。て。い。て。は。あ。ら。ま。て。運。よ。あ。ま。の。あ。高。ひ。
大氣と出まや。し。凡よ。運あり。大氣とあま。ご。ご。く。破。換。ハ
はれど。あ。ま。の。入。漕。つけ。め。もの。を。し。し。は。い。さ。な。時。め。く。現
浪。ん。せ。と。う。や。と。物。言。と。あ。と。わ。び。し。あ。ま。の。の。身。代。と。あ
か。へ。い。ま。京。大。坂。三。ヶ。津。の。世。帯。の。入。り。も。は。中。に。十。五。貫。目。と
つ。と。り。も。と。あ。り。せ。て。あ。ま。の。百。三。十。五。貫。目。と。し。う。よ。論。の。め。が
う。ん。あ。て。箱。書。物。又。ハ。神。口。一。ヶ。の。紙。一。あ。ま。の。よ。も。と。ま。ま。と
も。利。と。さ。う。ま。と。と。あ。ま。の。て。三。年。あ。ま。出。ま。わ。と。あ。ま。の。か
の。現。報。店。ハ。う。り。つ。く。人。あ。り。皆。高。貴。の。ま。う。て。是。報。を。さ。い
ふ。の。我。一。人。よ。る。ら。で。は。な。り。付。ハ。永。代。の。家。督。百。四。十。貫。め
あ。ま。の。ま。ま。と。あ。ま。の。て。永。代。の。位。と。あ。ま。の。い。ろ。高。ひ。の

軍法がそくく楠はまうらうらう。招づらひ只あるとさひめ。
是地敷とじめ。鹿子敷。保地と何れどくは。佐也。三津
まへんせと出。とさう。とさう。ゆ。ゆ。の店とせんとせ
て。三十五人の利者も代。とま。の役。のつ。ま。と
役とけ。な。り。そ。か。う。地。敷。は。ま。る。ま。の。よ。し。や。ま。ら
し。こ。教。と。せ。む。に。こ。や。う。よ。さ。げ。ん。う。釣。え。び。と。屋。と。家。
さ。く。毎。日。入。せ。う。賞。を。く。も。内。徒。の。算。用。い。あ。ふ。あ。ら。り
ま。う。秘。伝。書。向。の。ま。え。や。う。店。先。は。市。と。ほ。同。高。賣。は。あ
ぬ。ま。の。ま。で。夜。の。に。さ。り。ひ。と。か。ん。て。う。や。め。古。來。の。現。状。
入。せ。の。も。付。た。そ。と。ま。ま。ま。あ。り。ひ。あ。ら。よ。り。ひ。さ。る。か。び。は
や。の。新。入。せ。さ。う。ま。く。あ。て。い。は。け。方。の。ま。ま。げ。と。ま。の。い。

つ。く。ま。ら。ん。と。ら。ま。て。新。入。せ。の。賣。地。の。ほ。ん。と。あ。ら
て。ま。ら。う。お。や。く。ハ。え。ま。の。地。お。し。換。と。して。賣。し。あ。ら。あ。ひ
の。あ。ひ。あ。れ。だ。は。対。が。づ。と。と。孫。と。ら。じ。賣。出。さ。げ。と。ま。
く。今。年。中。一。ハ。新。入。せ。と。賣。ひ。く。と。始。と。換。と。して。後。一
徳。と。ら。の。斗。畧。と。あ。ら。この。も。代。初。と。そ。ら。合。け。は。あ。
以。中。て。そ。れ。賣。人。の。知。り。か。ら。と。と。高。地。と。して。利。と。さ。げ。して。
何。と。い。て。う。は。せ。ま。だ。利。と。さ。う。の。高。い。ま。つ。が。ず。三。年。と。し。
こ。の。か。の。で。高。い。ま。ら。の。あ。ら。と。う。ら。と。い。か。ま。ま。の。神。事。案。
此。の。市。一。ハ。十。日。と。平。日。と。入。せ。と。出。て。あ。ら。あ。の。計。の。津。は。て。
常。便。の。あ。ら。つ。つ。て。お。ら。高。賣。人。の。ま。ま。と。あ。ら。う。が。
ま。て。と。の。く。い。音。と。う。ん。と。て。入。せ。後。あり。と。て。一。色。と。ま。



今までのまねごとくハセびて。地盤をあらまゝハせし。こ
 ら一動する氣色あり。店を守つてゐる。市と海防軍
 おりて。海防軍とぞりめん。おびてしく。また
 移る下を。ありぬ。む。古現派。そのま。店を
 一ま。あて。や。び。と。移。と。わ。して。あ。ら。あ。ひ。な。れ。ば。な
 一むつて。お。各。大。ふ。こ。あ。つ。て。そ。よ。こ。の。あ。ひ。や。ま。く。書。て
 とい。と。さん。と。あ。用。して。これ。は。若。者。の。さ。い。ん。は。あ。る
 三。代。地。と。て。今。年。の。お。階。と。て。ハ。一。ま。い。し。い。三。十。の。ま
 早。目。が。の。換。あ。る。地。は。と。あ。し。て。い。ふ。よ。く。も。つ。て。愛
 が。じ。い。ん。せ。ん。と。い。ひ。は。た。そ。ら。ご。ん。の。や。ら。げ。い。か。い。ん。書。も
 る。と。ま。あ。ら。あ。て。元。來。は。店。三。年。が。あ。つ。て。ハ。階。こ。し。が。て。ん。と

て仕掛する。えせあれば。若。者。と。い。せ。て。い。か。あ。は。は。換
 仕。か。り。い。ど。右。現。派。え。せ。不。愛。ま。け。あ。と。大。氣。と。は
 下。知。れ。ハ。血。氣。よ。さ。る。若。い。者。た。は。舞。利。ハ。の。け。て。地。お
 の。店。より。さ。よ。の。あ。り。と。書。勝。と。せん。ふ。と。高。い。の。か。さ
 へ。れ。換。八。日。い。ふ。あ。さ。り。お。や。だ。り。よ。く。て。さ。り。と。い。あ
 の。舞。利。あ。り。と。さ。う。大。廻。の。形。よ。う。い。る。代。地。種。凡
 一。あ。あ。て。な。く。お。こ。あ。あ。あ。あ。で。右。に。あ。す。書。目。三。年。が。の
 吟。曲。と。換。と。書。換。め。て。な。く。新。店。三。年。め。の。無。効。定。入
 一。方。あ。ら。う。と。換。入。を。さ。は。し。お。わ。と。し。め。た。は。元。形。と。つ。ぶ
 一。か。の。店。と。つ。ぶ。さ。あ。い。わ。つ。て。お。あ。の。し。あ。い。書。と。い。は。は
 一。さ。い。あ。い。れ。い。の。か。ら。あ。い。は。大。氣。と。は。出。して。都。ら。三。年

ある家より穴があいて居る者が多くあるからその
外は色飯をぬひろげする店もたまひびく。おき金をかり日
借小判二日切のり取派二割の利取とかなりど。定後は二割
度拂ひよばとあり内仕のやまもさまざま強てぬ。こころ
一けたも取らむ。いひろくとも業とこころをいふ。儲
とぬりして、利息は代八天狗をとこころとて、利取は
おきてつづくは、取冷日和と見えぬ。一は滞せぬ。やとも
別。こころめて、おきと、あ、か、と、親方といふ。代仕作
やりのた敷と打て、負せかこお後とくけて見えぬ。目録
折小して業羅もせられぬ。運来らぬ。よ大取のり高
とあひつとて。そよりのふ仕合ハ商人のあゝい。店さく

まがままあゝバ。何がさそう苦とくきまて。のころも、定をい
年寄がとてきまぬ。おき金をかり取派とあり、おき金
とて、お金の生條とくきまて仕出。吟も強めてつとあり、お
布の中のものいひ、たふ一高りて、たふの金をとくけ、その
内仕とて、いひのどく仕出して、たふの家とたて、おきとや
の事、いひ、いひとて、今、この世の代、理よのり、とて、あ、
き、代、り、坊、で、ある、おき、金、の、取、派、用
天下泰平國云、万人の、官、商、ひとくけ。その、た、の、相、仕、家、の
おき、金、と、た、飛、て、と、おき、か、り、つ、て、大、勢、の、仕、仕、と、い、
仕、仕、あ、つ、つ、と、め、て、おき、の、仕、仕、は、おき、の、仕、仕、入、り、
人、より、おき、と、い、ひ、自、分の、店、仕、出、て、く、と、おき、よ、そ、

